第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)　　(平成28年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5　白楽ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾟﾗｻﾞ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647　菅田町ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙ1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3　まるあﾋﾞﾙ1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12　ｽｶｲﾋﾞﾙ21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107　ﾗｲﾌ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区宮元町3-55	731-2308
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34　森ﾋﾞﾙ1F	720-6008
あずま医院	南区清水ケ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30　ｻﾝﾗｲｽﾞ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ケ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ケ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ケ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11　田口ﾋﾞﾙ1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
冨野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1　大倉山ﾊｲﾑ1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200　菊名ﾚｼﾞﾃﾞﾝｼｱﾌﾟﾗｻﾞ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2　ﾎｰﾒｽﾄﾌﾟﾗｻﾞ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45　沖商事ﾋﾞﾙ102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14　ﾍﾞﾙﾃﾞｾｿﾞﾝ1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46　踊場ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1　ｹｱﾊｳｽゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14　ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ　1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1　三ツ境ﾗｲﾌB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11	506-3657
はぐ組こどもクリニック	鶴見区矢向5―6―22　飯塚眼科ﾋﾞﾙ101	717-7220
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4　ｵﾙﾄﾖｺﾊﾏﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾝﾀｰ1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7　東神奈川ｲｰｽﾄｱｰｸﾋﾞﾙ1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2　小菅医療ﾋﾞﾙ4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653

医療機関名	所在地	電話番号
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1　いずみﾌﾟﾗｻﾞ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 ｶﾐｵ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ケ谷区星川2-4-1　星川SFﾋﾞﾙ4F	336-2260
おざき小児科	保土ケ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ケ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ケ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ケ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ケ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58　大洋ﾋﾞﾙ2F	361-0212
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ﾋﾞﾙ102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891　西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11　高野第2ﾋﾞﾙ2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区寺前1-9-3　竹内マンション1階	350-6277
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1　長谷川ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19　福島ﾋﾞﾙ1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 ﾒﾃﾞｲｶﾙﾓｰﾙﾌﾞﾗｻﾞｰ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26　MKﾊｲﾑ1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22　ﾅﾋﾞｳｽ大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3　ﾀﾞｲｱﾊﾟﾚｽ鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1　土井ﾋﾞﾙ1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2　あざみ野ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
はなわ小児科内科クリニック	青葉区藤が丘1-28-3 ｳｲｽﾀﾘｱ28-2F	972-1515
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ケ崎南5-1-10 ﾉｰﾌﾞﾙ茅ケ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1F	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 ﾏｻｶﾋﾞﾙ1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 ﾓﾚﾗ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOﾋﾞﾙ2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 ｻﾆｰﾊｲﾂ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 ﾄﾐﾔﾋﾞﾙ4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙ2F	571-5861
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 ﾘｷﾍﾘｱﾝｻｽ1F	313-2022
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ｽﾄｰｸﾋﾞﾙ秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ﾐｵｶM202	842-0380
西谷眼科	保土ケ谷区西谷町943	382-4484
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSﾋﾞﾙ2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ｳﾞｨﾗ綱島ﾋﾞﾙ1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ﾋﾞﾙ1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 ｱﾋﾟﾀ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10　第3ﾌｼﾞﾓﾄﾋﾞﾙ2F	985-3719
たちはら眼科クリニック	都筑区北山田1-9-3 EKINIWA KITAYAMATA 1F	595-2110
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5　ARKﾋﾞﾙ3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2　相鉄ﾗｲﾌﾋﾞﾙ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5　相鉄KSﾋﾞﾙ2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1　ｿﾌｨｱﾖｺﾊﾏ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ケ谷下町213　第2江洋ﾋﾞﾙ4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2　ﾙｽ･ﾃﾞ･ﾙﾅ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ケ谷区帷子町1-30-1 ｸﾎﾞﾀﾋﾞﾙ2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ケ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3　第7ﾊﾟﾚｽ桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1　ﾌﾟﾗﾗSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31　ﾋﾙｽﾞ･ｶﾓ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24　ｱﾋﾞﾃﾉｰﾙ3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26　ﾋﾞｸﾄﾘｱｾﾝﾀｰ南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1　ｹｱﾊｳｽゆうあい4FB	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19　斉藤ﾋﾞﾙ2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27　ﾈｸｽﾄｱｲ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29　瀬谷ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科 （小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院 （内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 （眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITﾋﾞﾙ1F	261-1103
片山こどもクリニック （小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｱﾙﾀﾞ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院 （基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院 （基幹）	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科 （小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック （内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院 （内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック （小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科 （小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
はやし小児科医院 （小児科）	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院 （基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院 （内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
瀬谷こどもクリニック （小児科）	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
清水小児科 （小児科）	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191

疑似症定点（単独は56定点、 内科定点59小児科定点94を加え209定点）

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 ｻﾝﾜｲｽﾞﾋﾞﾙ3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 ﾌｰｶﾞ3ﾋﾞﾙ505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ﾋﾞﾙ1F	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ﾖｺﾊﾏﾎﾟｰﾄｻｲﾄﾞﾛｱ弐番館1F	451-6864
大口公園クリニック	神奈川区大口仲町15-2	642-7249
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ケ谷25-2 三ツ沢ﾊｲﾀｳﾝ1-111	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ﾋﾞﾙ2F	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ツ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ﾋﾞﾙ3F	841-0133
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066

医療機関名	所在地	電話番号
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ケ谷区川島町1404　くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ケ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4　希望が丘ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22　三葉ﾋﾞﾙ	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9　ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ2F	785-3912
白石クリニック	金沢区富岡西6-18-25	774-7725
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3　斉木ﾋﾞﾙ2F	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2　第7吉田ﾋﾞﾙ2F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16　日吉教養ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19　福島ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10　ｱﾓﾝｸｰﾙ1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ケ尾町1167-1　ﾗﾊﾞｰﾌﾞﾙ昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11　ｻﾝｻｰﾗあざみ野ﾋﾞﾙ3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16　TMIﾋﾞﾙ　1103	910-5033
みたに内科クリニック	都筑区中川1-14-10　ｵｰﾙﾒﾝﾋﾞﾙ1F	910-0933
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15　横浜青葉ｸﾘﾆｯｸｾﾝﾀｰ2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ケ崎南3-1-60　ｻﾞ・ｸﾞﾚｲｽ2F	945-1112
都筑あずま内科リウマチ科	都筑区仲町台2-9-12	943-0088
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8　土屋ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ1F	865-6666
おおくぼ総合内科クリニック	戸塚区川上町91-1　ﾓﾚﾗ東戸塚3F	383-9805
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉中央南3-1-66　ﾌｫﾚｽﾄいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制　　定　平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）
最近改正　平成 28 年 3 月 29 日健健安第 2219 号（局長決裁）

第１　趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第２　対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

１　全数把握の対象

一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱

二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ（H5N1）、(14)鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス

四類感染症

(20)Ｅ型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)Ａ型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Ｑ熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Ｂウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフト

バレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2　定点把握の対象

五類感染症（定点）

(86)ＲＳウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎、(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎、(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症、(104)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(105)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(113)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(114)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

3　オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ（H5N1）

第３　実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第４　実施体制の整備

１　横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

２　指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1)　健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第 14 条第１項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2)　健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第７条の２に規定する五類感染症については、法第 14 条の２第１項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

３　横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

４　検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発 1117 第２号平成 27 年 11 月 27 日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第５　事業の実施

１　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1)　調査単位及び実施方法

ア　診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ　検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式１「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体)」（以下、別記様式１という。）の検査票を添付して提供する。

ウ　福祉保健センター

(ｱ)　届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

(ｲ)　福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式１を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ｳ)　福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式１を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(ｴ)　福祉保健センターは、キ(ｱ)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式１等により速やかに送付する。

(ｵ)　なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

エ　健康福祉局

(ｱ)　健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ｱ)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(ｲ)　健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

(ｳ)　感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

(ｴ)　緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

(ｵ)　迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行う

ウ(ｲ)から(ｴ)までの対応は、健康福祉局が行う。

オ　感染症情報センター

(ｱ)　感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ｱ)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。

(ｲ)　感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ　衛生研究所

(ｱ)　衛生研究所は、別記様式１及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式１により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ)　検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ｳ)　衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

2　定点把握対象の五類感染症

(1)　対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2)　定点の選定

ア　患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ　病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て

原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ｱ) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(ｲ) ２の(ｱ)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ｳ) (ｲ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

(ｱ) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(ｲ) 病原体定点は、検体等について、別記様式２「病原体定点からの検査依頼書」（以下、「別記様式２」という。）を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ｳ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第２の(86)から(96)について、調査単位ごとに、概ね４症例からそれぞれ少なくても１種類のを送付する。

(ｴ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第２の(97)に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも１検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式１を添付して提供する。

エ 福祉保健センター

(ｱ) 福祉保健センターは、ア(ｳ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の３日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、

対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式１を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ｲ)　福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式１を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(ｳ)　福祉保健センターは、カ(ｱ)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式１により速やかに送付する。

オ　健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ　感染症情報センター

(ｱ)　感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。

(ｲ)　感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ　衛生研究所

(ｱ)　衛生研究所は、イ(ｲ)により別記様式２及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式２により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ)　衛生研究所は、エ(ｲ)により別記様式１及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式１により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｳ)　検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に

応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ｴ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ｱ) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。

(ｲ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載し、感染症情報センターへ提出する。

(ｳ) (ｲ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ 感染症情報センター

(ｱ) 届出を受けた感染症情報センターは、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を確認し、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局及び中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4　オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1)　福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2)　感染症情報センター

ア　感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ　医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3)　衛生研究所

ア　衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあっては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ　鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第９条第２項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第６　その他

1　感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとるところが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

2　本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

附　則

（施行期日）

1　この実施要綱は、平成 15 年 11 月５日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年６月 12 日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年５月 12 日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 23 年２月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 25 年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。
（経過措置）
2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則
（施行期日）
1　この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。
（経過措置）
2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則
（施行期日）
1　この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。
（経過措置）
2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則
（施行期日）
1　この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。
（経過措置）
2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

別記様式一覧表

別記様式 1　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式 2　病原体定点からの検査依頼書（3 枚複写式）
（医療機関控）
（衛生研究所控）
（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正　平成 23 年５月 24 日　健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第１条　横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第３条　委員会は、委員６人以上 10 人以下をもって組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

(1) 学識経験者

(2) 横浜市医師会を代表する者

(3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第４条　委員の任期は、３年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第６条　委員会の会議は、委員長が毎月１回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第７条　委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

（関係者の出席等）

第８条　委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第９条　委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

（その他）

第 10 条　本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 14 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 23 年５月 24 日から施行する。

平成 28 年 1 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 1 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ流行注意報が発令されました（注意報発令基準値：定点あたり 10.00）。現在の流行の主流は AH1pdm09 で、ワクチン株と類似しています。今後さらに流行が拡大することが考えられるため、注意が必要です。**
- **感染性胃腸炎は流行のピークを過ぎましたが、報告が多い区や、集団発生も報告されており、引き続き注意が必要です。**

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
デング熱	3 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	3 件
レジオネラ症	4 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 件
レプトスピラ症	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	12 件
アメーバ赤痢	4 件	水痘(入院例に限る)	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	梅毒	10 件
急性脳炎	1 件	破傷風	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症：**1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。勤務先の定期検便で判明しましたが、周囲の感染者は確認できませんでした。

2 **デング熱：**3 件の報告があり、海外（ミャンマー、ベトナム、フィリピン）での感染が推定されています。

3 **レジオネラ症：**肺炎型 2 件、ポンティアック型 1 件、無症状病原体保有者 1 件の報告がありましたが、どれも明確な感染経路等は不明でした。

4 **レプトスピラ症：**1 件の報告がありました。国内での動物（ネズミ）による感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物（ネズミ等）の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。

5 **アメーバ赤痢：**腸管アメーバ症 4 件の報告があり、1 件はアメリカまたは東南アジアでの経口感染、もう 1 件は中国での感染で感染経路不明、残る 2 件は国内での感染で感染経路不明でした。

6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**4 件の報告がありました。

7 **急性脳炎：**1 件の幼児の報告がありました。ノロウイルスによる感染が推定されています。

8 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）：**AIDS1 件、無症状病原体保有者 1 件、その他 1 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内での同性間性的接触による感染、残るもう 1 件はインドネシアでの異性間性的接触による感染でした。

9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症：**3 件の報告（70 歳代 2 件、90 歳代 1 件）がありました。

10 **侵襲性肺炎球菌感染症：**成人例 12 件の報告があり、すべて予防接種歴は確認できませんでした。

11 **水痘（入院例に限る）：** 幼児の臨床診断例が 1 件ありました。約 1 年前にワクチン接種歴が 1 回ありました。

12 **梅毒：**10 件の報告（早期顕症梅毒Ⅱ期 1 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 6 件、無症候期 3 件）があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触 5 件、同性間性的接触 2 件、性的接触（同性間か異性間か不明）1 件、感染経路不明 2 件でした。

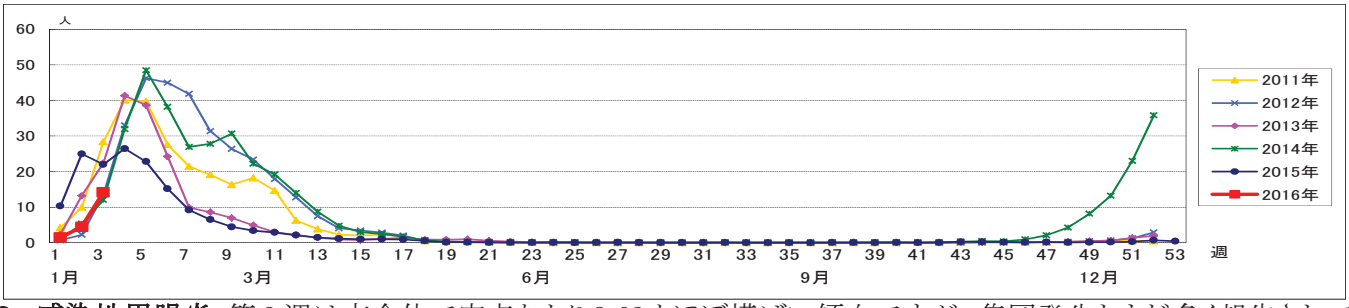
13 **破傷風：**1 件の報告があり、創傷感染が推定されています。

定点把握の対象

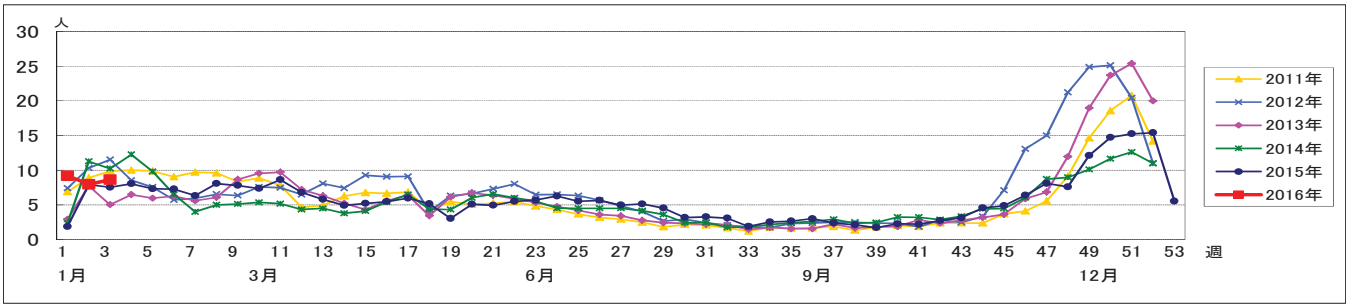
平成 27-28 年　週ー月日対照表	
第 51 週	12 月 14 日～20 日
第 52 週	12 月 21 日～27 日
第 53 週	12 月 28 日～1 月 3 日
第 1 週	1 月 4 日～10 日
第 2 週	1 月 11 日～17 日
第 3 週	1 月 18 日～24 日

1　**インフルエンザ**：第 3 週は市全体で定点あたり 14.13 と、注意報発令基準値 10.00 を上回りました。学級閉鎖や、入院が必要となる重症化事例も増加しています。市内医療機関での迅速診断キットの結果では A 型 76.8%、B 型 22.6%、AB ともに検出 0.6%と、流行シーズン初めながら B 型が多く検出されています。衛生研究所で検査した市内のウイルス検出状況は AH1pdm09 が 83.3%（30 件中 25 件）と最も多くなっており、現在の流行の主流と考えられます。ワクチン株との抗原性解析では、解析した AH1pdm09 株はすべてワクチン株と類似していました。今後のさらなる流行に注意が必要です。

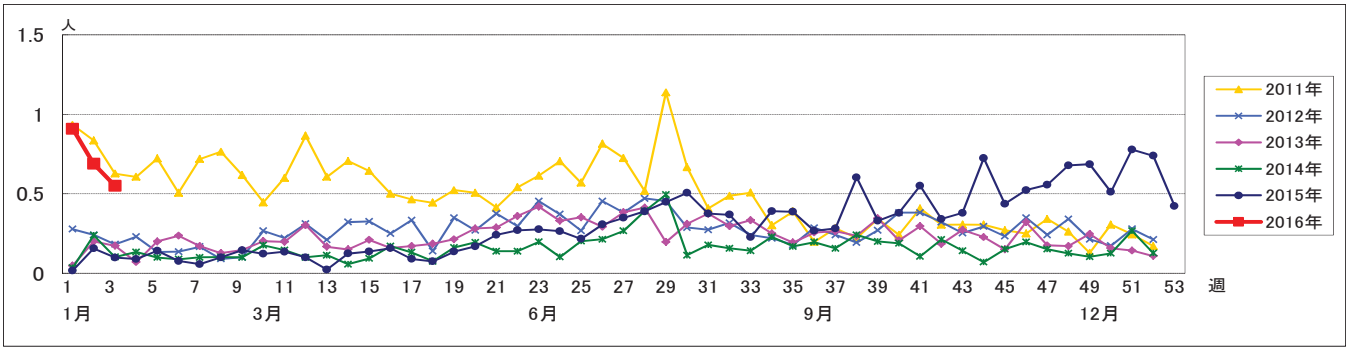
◆参考：感染症臨時情報「インフルエンザ」（横浜市感染症情報センター）



2　**感染性胃腸炎**：第 3 週は市全体で定点あたり 8.63 とほぼ横ばい傾向ですが、集団発生もまだ多く報告されています。区別では港南区 14.00 など報告が多い区もあり、注意が必要です。



3　**流行性耳下腺炎**：第 3 週は市全体で定点あたり 0.55 と、直近 3 週間では低下傾向ですが、例年に比べて報告数が多い状況が続いています。



4　**性感染症**：2015 年 12 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 20 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 10 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 13 件、女性が 1 件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 51 週 1.33、第 52 週 0.75、第 53 週 0.75、第 1 週 1.00、第 2 週 1.00、第 3 週 0.75 とコンスタントに報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）が第 51 週 1.33、第 52 週 0.00、第 53 週 0.00、第 1 週 0.25、第 2 週 0.00、第 3 週 0.25 と報告されています。細菌性髄膜炎が第 3 週に 1 件報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：2015 年 12 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 7 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 2 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 2 月 25 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ流行警報発令中です（警報報発令基準値：定点あたり 30.00）。**
- **第 7 週では、インフルエンザの流行の主体は B 型です。**
- **AH1pdm09 による、インフルエンザ脳症の報告が第 3 週にありました。**

全数把握の対象

【2 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	1 件
A 型肝炎	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
デング熱	1 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）	2 件
レジオネラ症	8 件	侵襲性肺炎球菌感染症	10 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	4 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件		

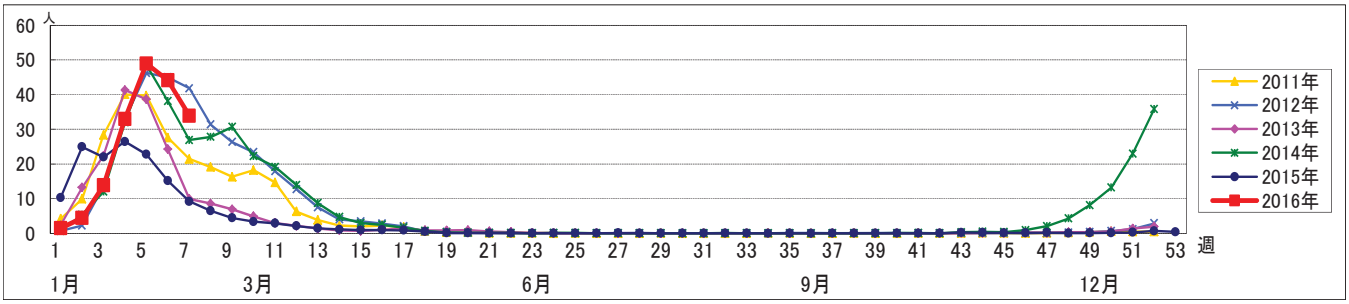
1 **細菌性赤痢：***Shigella sonnei*（D 群）の報告が 1 件あり、海外（タイ）での経口感染が推定されています。
2 **A 型肝炎：**2 件の報告があり、1 件は海外（インドシア）での経口感染、もう 1 件は感染経路感染地域不明でした。
3 **デング熱：**1 件の報告があり、海外（カンボジア）での感染が推定されています。
4 **レジオネラ症：**肺炎型 8 件の報告がありましたが、現在感染経路等調査中です。
5 **アメーバ赤痢：**腸管アメーバ症 2 件の報告があり、1 件は性的接触による感染で、感染地域不明。もう 1 件は国内での感染で感染経路等不明でした。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**3 件の報告がありました。
7 **急性脳炎：**1 件の 10 歳代の報告が第 3 週にありました。インフルエンザウイルス AH1pdm09 が検出されています。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症：**1 件の 80 歳代の報告があり、創傷感染が推定されています。
9 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）：**無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
10 **侵襲性肺炎球菌感染症：**成人例 10 件の報告があり、そのうち 1 件では予防接種歴（約 1 年前）が確認できましたが、他はすべて確認できませんでした。
11 **梅毒：**4 件の報告（早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 2 件）があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触 1 件、性的接触（性別不明）2 件、感染経路等不明 1 件でした。

定点把握の対象

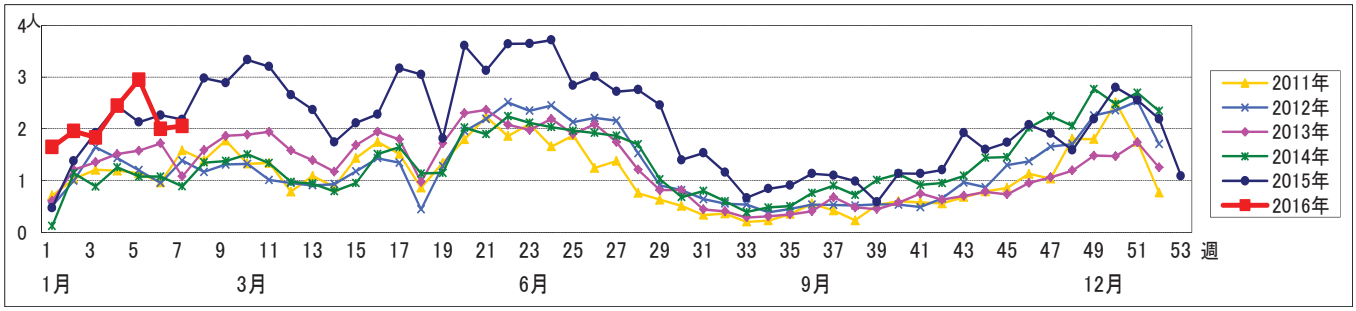
平成 28 年　週－月日対照表	
第 4 週	1 月 25 日～31 日
第 5 週	2 月 1 日～7 日
第 6 週	2 月 8 日～14 日
第 7 週	2 月 15 日～21 日

1　**インフルエンザ**：第 4 週に市全体で、警報発令基準値である定点あたり 30.00 を上回り、流行警報が発令されました。その後第 5 週 48.93 をピークに第 7 週 33.90 と減少傾向です。ただ、依然として報告が多い状態や、入院例の報告が続いており、引き続き注意が必要です。医療機関における迅速診断キットの結果では、いままで多かった A 型に代わり、B 型の報告の方が多くなりました。市内で検出されたウイルスでも、第 7 週は B 型（Victoria 系統）4 件、B 型（山形系統）3 件、AH1pdm09 型 4 件と、B 型が A 型を上回っていました。これからは、流行の主流は B 型が占めるものと思われます。横浜市衛生研究所で実施したワクチン株との抗原性解析では、解析した AH1pdm09 株と B 型（Victoria 系統）株はすべてワクチン株と類似していました。今後もインフルエンザの流行が継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策が重要です。

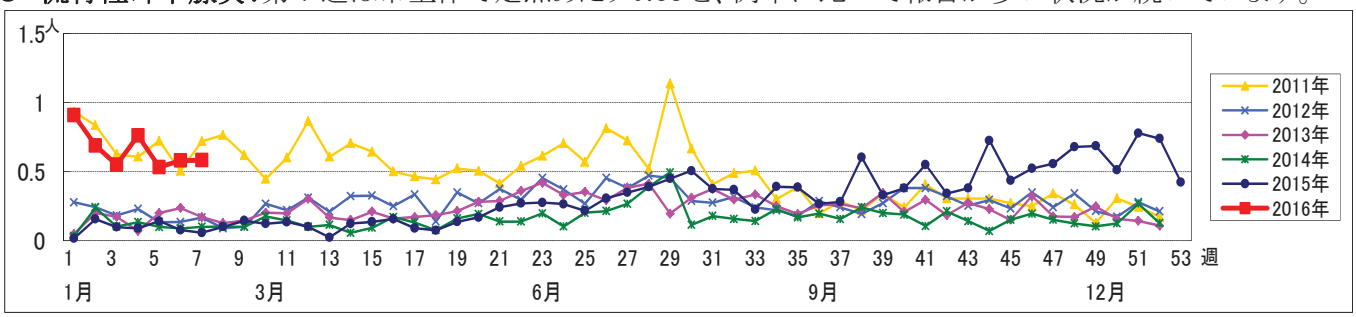
◆参考：感染症臨時情報「インフルエンザ」（横浜市感染症情報センター）



2　**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：第 7 週は市全体で定点あたり 2.05 と、例年より報告が多くなっています。



3　**流行性耳下腺炎**：第 7 週は市全体で定点あたり 0.58 と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



4　**性感染症**：1 月は、性器クラミジア感染症が男性が 17 件、女性が 18 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 5 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 11 件、女性が 3 件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 4 週 0.67、第 5 週 0.25、第 6 週 1.50、第 7 週 0.00 と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第 4 週 0.67、第 5 週 0.00、第 6 週 0.50、第 7 週 0.00 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 3 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 3 月 24 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザが流行中です。**
- **第 11 週では、インフルエンザ迅速診断キット結果の 8 割は B 型です。**
- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。**

全数把握の対象

【3 月期に報告された全数把握疾患】

A 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	6 件
デング熱	2 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	6 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
ウイルス性肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	13 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 件	水痘(入院例に限る)	1 件
急性脳炎	2 件	梅毒	8 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件	風しん	1 件

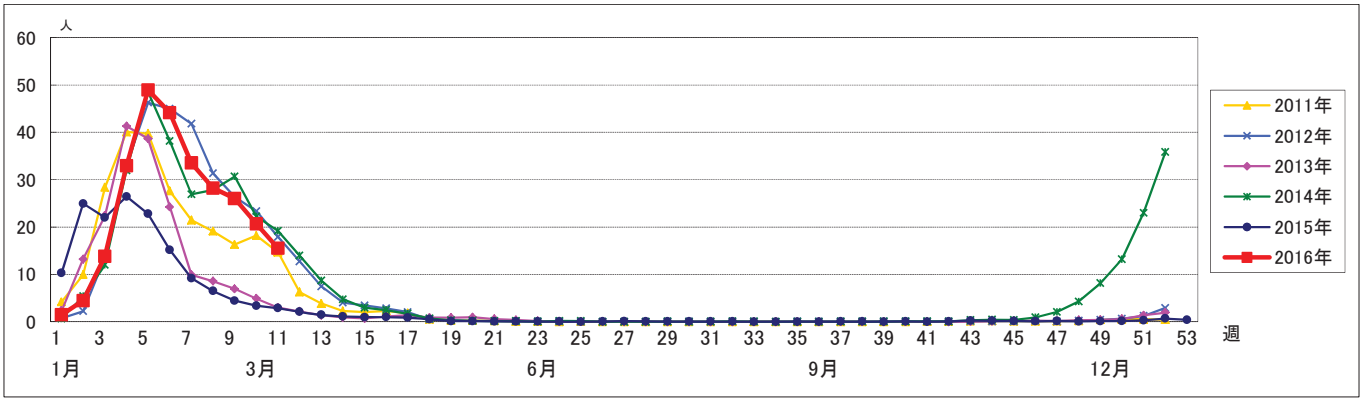
1 **A 型肝炎:**1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
2 **デング熱:**2 件の報告があり、海外(どちらもインドネシア)での感染が推定されています。
3 **レジオネラ症:**肺炎型 2 件、無症状病原体保有者 1 件の報告がありましたが、感染原因等不明でした。
4 **アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症 6 件の報告があり、1 件は同性間及び異性間性的接触による感染、もう 1 件は異性間性的接触による感染、さらにもう 1 件は海外(タイ(バンコク))での経口感染で、残る 3 件は感染経路不明でした。
5 **ウイルス性肝炎:**1 件の C 型肝炎の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**2 件の報告がありました。
7 **急性脳炎:**2 件の幼児の報告がありました。1 件は迅速診断キットの結果でインフルエンザ B 型が検出されています。もう1件は病原体検索中です。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**2 件の高齢者の報告があり、1 件は飛沫感染による感染、もう 1 件は感染経路等不明でした。
9 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**AIDS 3 件、無症状病原体保有者 2 件、その他 1 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内での同性間性的接触、1 件は国内での異性間性的接触、もう 1 件は海外(タイ)での異性間性的接触、さらにもう 1 件は海外(タイ)でのタトゥーによる感染が推定されています。残る 1 件は感染経路等不明でした。
10 **ジアルジア症:**1 件の報告がありましたが感染経路不明でした。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:**成人例 1 件の報告がありました。ワクチン接種歴は不明でした。
12 **侵襲性髄膜炎菌感染症:**60 歳代の報告が 1 件ありました。感染経路は不明で、周囲に他の患者は確認されませんでした。
13 **侵襲性肺炎球菌感染症:**成人例 12 件、幼児 1 件の報告がありました。成人例の 2 件でワクチン接種歴(1 件は約半年前、もう 1 件は 3 年前)が確認できましたが、他はすべて確認できませんでした。
14 **水痘(入院例に限る):** 幼児の報告が 1 件あり、予防接種歴は確認できませんでした。
15 **梅毒:**8 件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期 3 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 4 件、無症状病原体保有者 1 件)があり、うち 7 件が国内感染例で、残る 1 件は感染地域不明でした。感染経路では、すべて性的接触で、異性間 3 件、同性間 1 件、性別不明 4 件でした。
16 **風しん:**10 歳代女性の臨床診断例の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴が 1 回ありました。

定点把握の対象

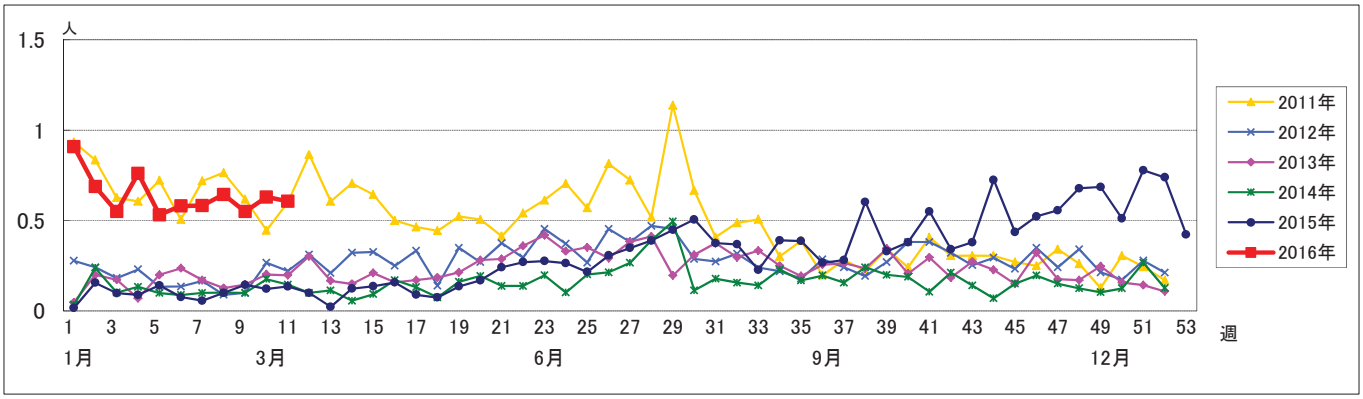
平成 28 年　週－月日対照表	
第 8 週	2 月 22 日～28 日
第 9 週	2 月 29 日～3 月 6 日
第 10 週	3 月 7 日～13 日
第 11 週	3 月 14 日～20 日

1　**インフルエンザ**：第 11 週（3 月 14 日～20 日）の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で 15.49 と減少傾向ですが、区別では 20.00 を上回っている区もあり、引き続き注意が必要です。医療機関における迅速診断キットの結果報告数では、第 11 週では全体の約 8 割が B 型です。市内で検出されたウイルスでは、B 型（山形系統）の割合が増加傾向です。今シーズンに入り、薬剤耐性遺伝子を検出したウイルス株が 2 株（AH1pdm09 型）検出されていますが、その後の周囲での耐性株の流行は確認されていません。横浜市衛生研究所で実施したワクチン株との抗原性解析では、解析した AH1pdm09 株、B 型（Victoria 系統）株、B 型（山形系統）株はすべてワクチン株と類似していました。今後もしばらくはインフルエンザの流行が継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策が重要です。

◆参考：感染症臨時情報「インフルエンザ」（横浜市感染症情報センター）



2　**流行性耳下腺炎**：第 11 週は市全体で定点あたり 0.61 と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



3　**性感染症**：2 月は、性器クラミジア感染症は男性が 15 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 2 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 9 件、女性が 1 件でした。

4　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 8 週 0.25、第 9 週 0.50、第 10 週 0.33、第 11 週 1.00 と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第 8 週 0.75、第 9 週 0.50、第 10 週 0.00、第 11 週 1.00 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5　**基幹定点月報**：2 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 10 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 4 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 4 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザが昨シーズンより 5 週遅く、警報解除基準値（定点あたり 10.00）を下回りました。**
- **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。**
- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。**
- **流行性角結膜炎の報告が例年より多くなっています。**

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

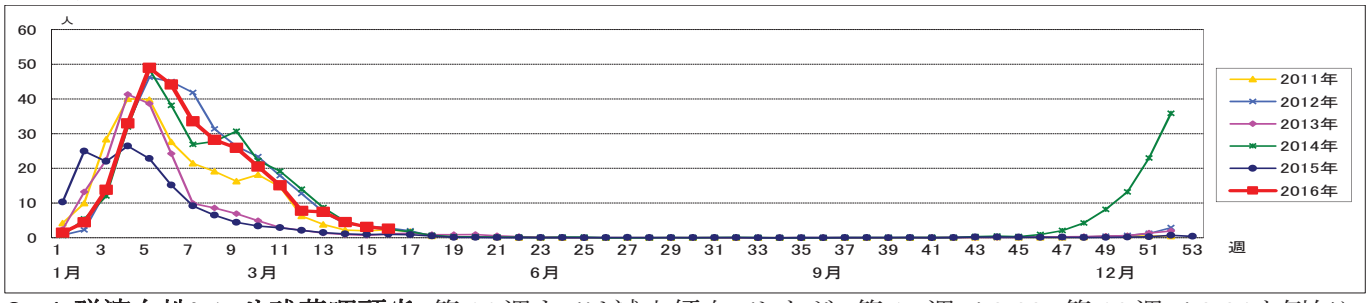
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	12 件
アメーバ赤痢	3 件	水痘（入院例に限る）	3 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 件	梅毒	9 件
急性脳炎	3 件	風しん	2 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：1 件の O111 VT1 の報告があり、海外（フィリピン）での経口感染が推定されています。
2 **E 型肝炎**：1 件の報告がありましたが、感染経路等不明でした。
3 **デング熱**：1 件の報告があり、海外（パラグアイ）での感染が推定されています。
4 **レジオネラ症**：5 件の肺炎型の報告があり、うち 2 件は神奈川県の水系感染と推定、1 件は静岡県の水系感染と推定、2 件は神奈川県で感染経路等不明でした。
5 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症 3 件の報告があり、1 件は海外（中国（上海））での経口感染、もう 1 件は国内での経口感染が推定され、さらにもう 1 件は神奈川県または海外（ベトナムまたは韓国）での経口感染が推定されています。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：2 件の報告があり、神奈川県での手術部位感染、1 件は感染経路、感染地域不明です。
7 **急性脳炎**：2 件の幼児、1 件の児童の報告がありました。いずれも病原体不明です。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：2 件の高齢者の報告は国内での創傷感染が推定され、もう 1 件の成人例は感染経路等不明でした。
9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：成人例 1 件の報告がありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
10 **侵襲性髄膜炎菌感染症**：高齢者の報告が 1 件ありました。感染経路は不明で、共同生活ではありませんでした。
11 **侵襲性肺炎球菌感染症**：幼児は 1 件の報告があり、4 回のワクチン接種歴が確認されました。成人例は 2 件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。高齢者は 9 件の報告があり、うち 1 件は 1 回のワクチン接種が確認され、もう 8 件はワクチン接種歴が確認できませんでした。
12 **水痘（入院例に限る）**：成人例の報告が 2 件、高齢者の報告が 1 件あり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
13 **梅毒**：9 件の報告（早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 4 件、無症状病原体保有者 3 件）があり、うち 8 件が国内感染例で、1 件は感染地域不明でした。感染経路はいずれも異性間の性的接触でした。
14 **風しん**：40 歳代男女の検査診断例の報告が 1 件ずつありました。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

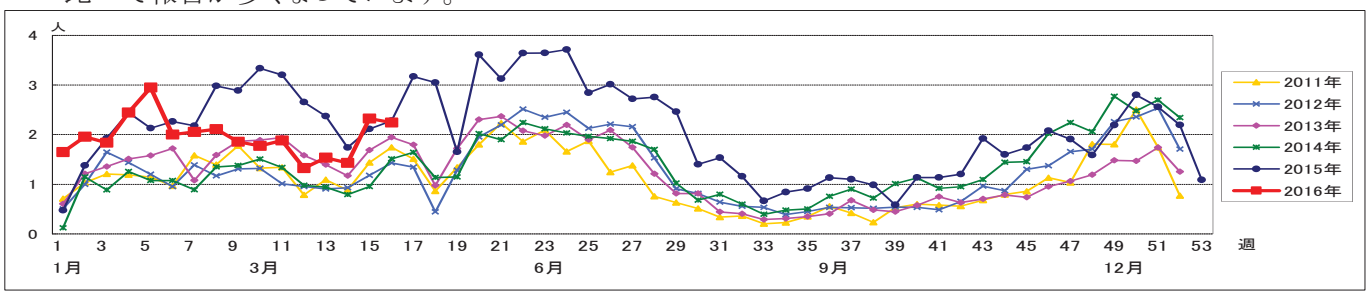
定点把握の対象

平成 28 年　週－月日対照表	
第 12 週	3 月 21 日～27 日
第 13 週	3 月 28 日～4 月 3 日
第 14 週	4 月 4 日～10 日
第 15 週	4 月 11 日～17 日
第 16 週	4 月 18 日～24 日

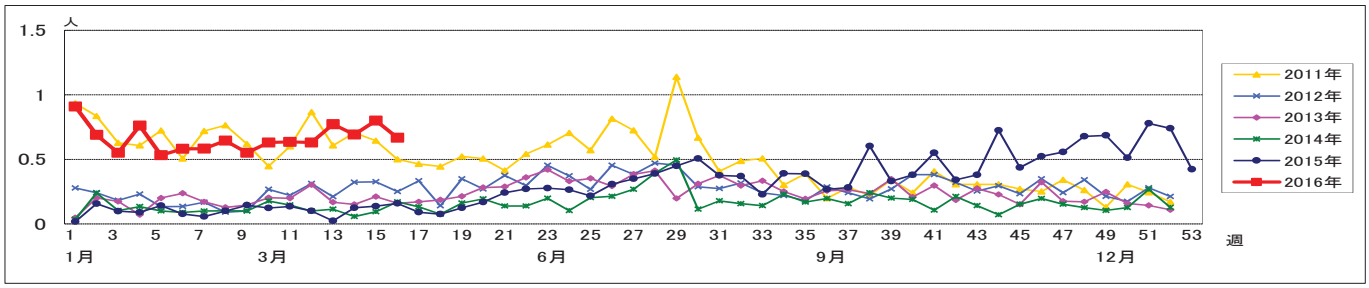
1　**インフルエンザ**:第 12 週(3 月 21 日～27 日)の定点あたりの患者報告数が横浜市全体で 7.76 となり、昨シーズンより 5 週遅く警報解除基準値(定点あたり 10.00)を下回りました。第 12 週、第 13 週(3 月 28 日～4 月 3 日)の区別では 10.00 を上回っている区もありましたが、第 14 週(4 月 4 日～10 日)ではすべての区で 10.00 を下回りました。



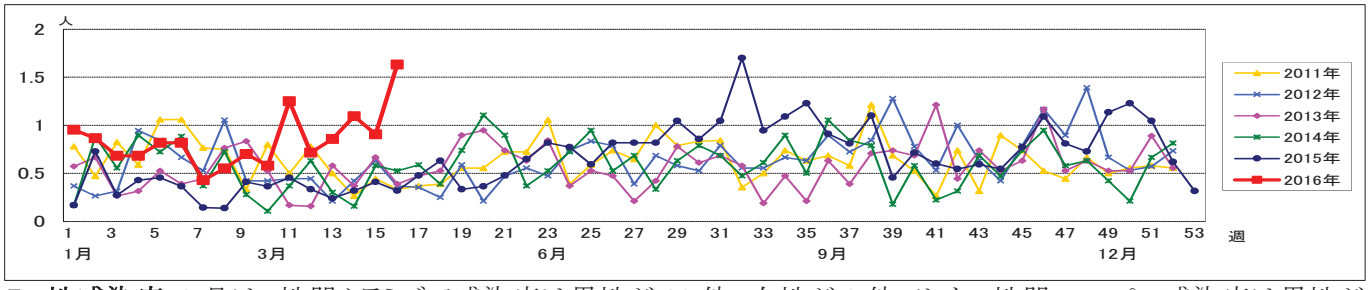
2　**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 14 週までは減少傾向でしたが、第 15 週で 2.32、第 16 週で 2.24 と例年に比べて報告が多くなっています。



3　**流行性耳下腺炎**:第 16 週は市全体で定点あたり 0.67 と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



4　**流行性角結膜炎**:第 16 週で 1.63 と例年に比べて報告が多くなっています。



5　**性感染症**:3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 23 件、女性が 9 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 3 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 13 件、女性が 1 件でした。

6　**基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 12 週 0.75、第 13 週 0.00、第 14 週 0.25、第 15 週 0.00、第 16 週 1.00 と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第 12 週 0.50、第 13 週 0.00、第 14 週 1.00、第 15 週 0.00、第 16 週 0.50 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7　**基幹定点月報**:3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 9 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 5 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 5 月 26 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。**
- **流行性角結膜炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。**

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

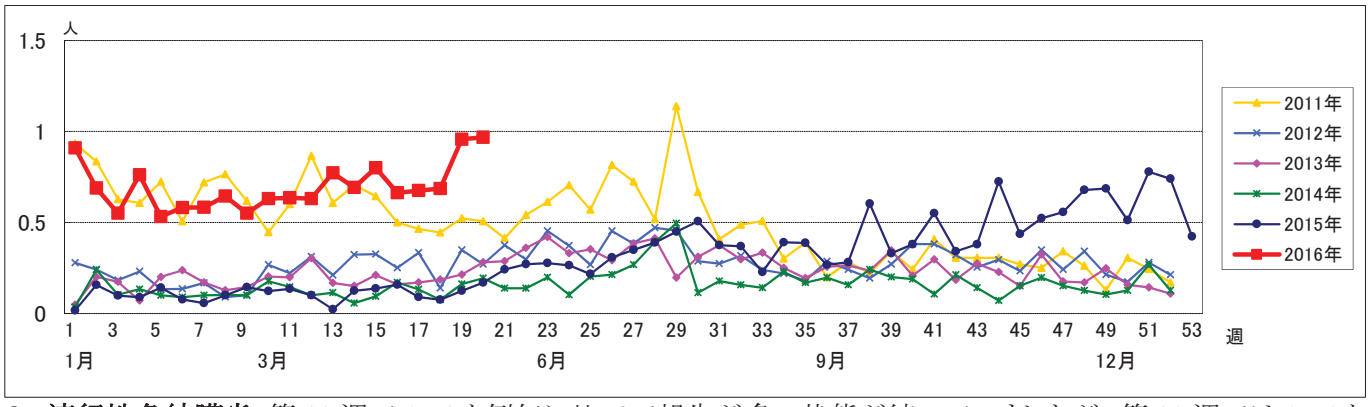
腸チフス	2 件	急性脳炎	3 件
E 型肝炎	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
デング熱	3 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	2 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	10 件
ウイルス性肝炎	1 件	水痘(入院例に限る)	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件	梅毒	13 件

1 **腸チフス:**2 件の報告があり、海外(バングラデシュ、ミャンマー)での経口感染が推定されています。
2 **E 型肝炎:**2 件の報告がありましたが、国内での経口感染が推定されています。
3 **デング熱:**3 件の報告があり、いずれも海外(インドネシア・バリ島)での感染が推定されています。
4 **レジオネラ症:**3 件の肺炎型の報告があり、うち 1 件は水系感染と推定、2 件は感染経路等不明でした。
5 **ウイルス性肝炎:**1 件の CMV の報告があり、感染経路等不明です。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**3 件の報告があり、うち 2 件は以前からの保菌で、1 件は感染経路等不明です。
7 **急性脳炎:**2 件の幼児(ロタウイルス)、1 件の児童(病原体不明)の報告がありました。ロタウイルスの 2 件は国内での感染、原因不明の 1 件はサイパン島での経口感染が推定されています。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**2 件の高齢者の報告は神奈川県での感染で、1 件は創傷感染、1 件は飛沫・飛沫核感染が推定されています。
9 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**異性間の性的接触による AIDS の報告が 1 件、同性間の性的接触による無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
10 **侵襲性肺炎球菌感染症:**幼児は 1 件の報告があり、4 回のワクチン接種歴が確認されました。成人例は 3 件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。高齢者は 6 件の報告があり、うち 1 件は 1 回のワクチン接種が確認され、もう 5 件はワクチン接種歴が確認できませんでした。
11 **水痘(入院例に限る):**成人例の報告が 1 件あり、1 回のワクチン接種歴がありました。
12 **梅毒:**13 件の報告(無症状病原体保有者 4 件、早期顕症梅毒 I 期 5 件、早期顕症梅毒 II 期 3 件、晩期顕症梅毒 1 件)があり、うち 12 件が国内感染例で、1 件は感染地域不明でした。感染経路は 11 件が性的接触、1 件が感染経路不明、1 件は 40 年前に手術歴(詳細不明)があります。

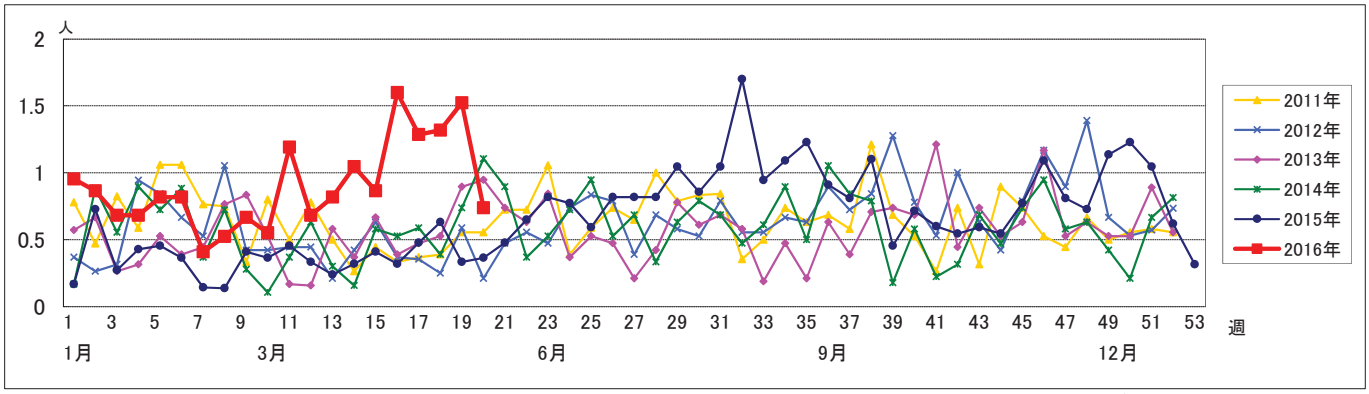
平成 28 年　週－月日対照表	
第 17 週	4 月 25 日～5 月 1 日
第 18 週	5 月 2 日～8 日
第 19 週	5 月 9 日～15 日
第 20 週	5 月 16 日～22 日

定点把握の対象

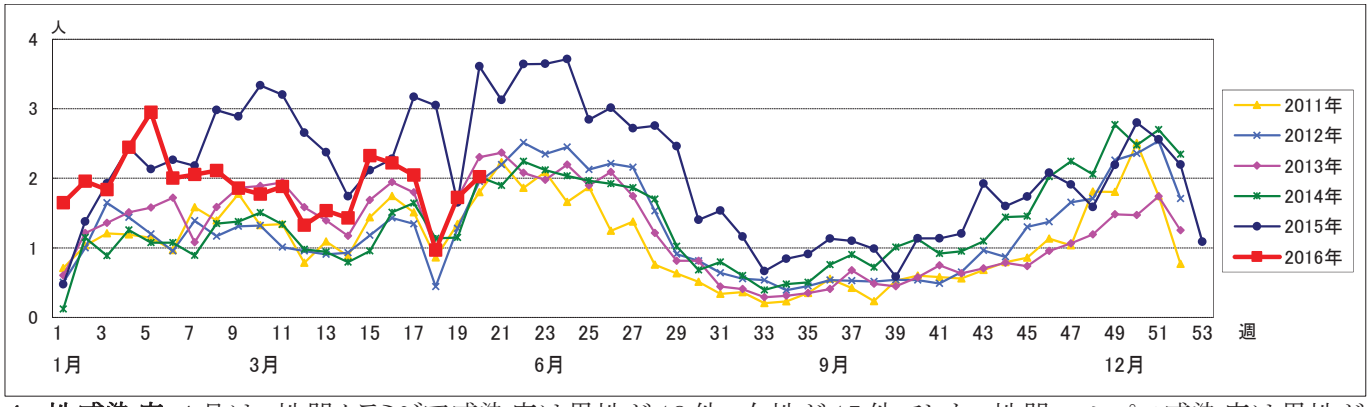
1　**流行性耳下腺炎**：第 20 週で定点あたり 0.97 と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



2　**流行性角結膜炎**：第 19 週で 1.52 と例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、第 20 週では 0.74 と減少しています。



3　**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：第 15 週で 2.32、第 16 週で 2.22 と例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、ゴールデンウィークに減少後、第 20 週は 2.02 と例年と同様の報告となっています。



4　**性感染症**：4 月は、性器クラミジア感染症は男性が 18 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 1 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 13 件、女性が 0 件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 17 週 0.67、第 18 週 0.00、第 19 週 1.00、第 20 週 0.33 と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第 17 週 0.67、第 18 週 0.75、第 19 週 0.75、第 20 週 0.00 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：4 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 11 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 6 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 6 月 30 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **ジカウイルス感染症（輸入例）の報告が 1 件ありました。**
- **咽頭結膜熱の報告が例年より多くなっています。**
- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。**
- **流行性角結膜炎、 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。**

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

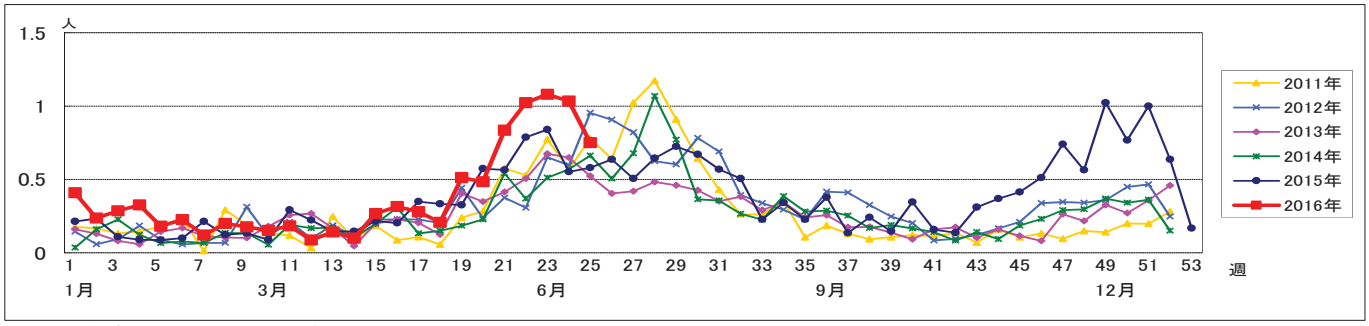
腸管出血性大腸菌感染症	7 件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件
E 型肝炎	1 件	急性脳炎	3 件
A 型肝炎	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
ジカウイルス感染症	1 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	4 件
ボツリヌス症	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
マラリア	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	13 件
レジオネラ症	2 件	水痘（入院例に限る）	4 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	15 件
ウイルス性肝炎	1 件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症：**O157 が 5 件、O115 が 1 件、O26 が 1 件報告されています。O157 のうち 2 件は同居家族です。
2 **E 型肝炎：**1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
3 **A 型肝炎：**2 件の報告があり、いずれも感染原因は不明で、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
4 **ジカウイルス感染症：**中南米の流行地域での蚊の刺咬歴のある帰国者で 1 件の報告がありました。
5 **ボツリヌス症：**4 か月の乳児で 1 件の報告があり、感染経路は不明です。
6 **マラリア：**2 件の報告があり、それぞれウガンダ、ガーナからの帰国者でした。
7 **レジオネラ症：**2 件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
8 **アメーバ赤痢：**4 件の報告があり、2 件は国内での性的接触が推定され、2 件は感染経路等不明でした。
9 **ウイルス性肝炎：**1 件の B 型の報告があり、中国での性的接触によるものと推定されます。
10 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**7 件の報告があり、うち 5 件は以前からの保菌で、2 件はドレーン、手術部位からの感染と推定されます。
11 **急性脳炎：**3 件の乳幼児の報告がありました。いずれも病原体不明です。
12 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症：**A 群が1件、G 群が 1 件報告され、創傷感染が推定されています。
13 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）：**AIDS の報告が同性間の性的接触にて 1 件、無症状病原体保有者の報告が同性間の性的接触にて 2 件、その他の報告が感染経路等不明にて 1 件ありました。
14 **侵襲性インフルエンザ菌感染症：**2 件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
15 **侵襲性肺炎球菌感染症：**乳児は 1 件の報告がありワクチンは 4 回目が未接種、幼児は 3 件の報告があり 4 回のワクチン接種歴が確認されました。高齢者は 6 件の報告があり、うち 2 件はワクチン接種歴が確認されましたが、4 件についてはワクチン接種歴は確認できませんでした。
16 **水痘（入院例に限る）：**小児の報告が 2 件、成人の報告が 2 件ありました。
17 **梅毒：**15 件の報告（無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 7 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件）があり、うち 12 件が国内感染例で、3 件は感染地域不明でした。感染経路は 11 件が性的接触、4 件が感染経路不明でした。

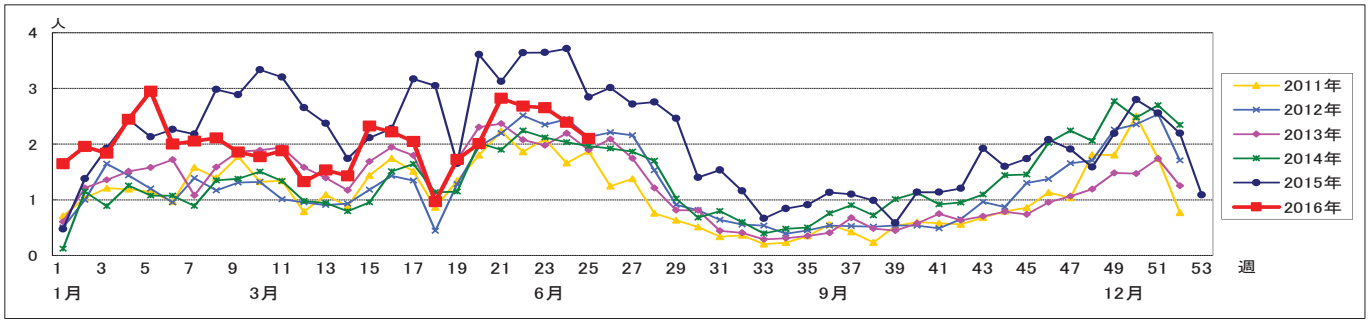
平成 28 年　週－月日対照表	
第 22 週	5 月 30 日～6 月 5 日
第 23 週	6 月 6 日～12 日
第 24 週	6 月 13 日～19 日
第 25 週	6 月 20 日～26 日

定点把握の対象

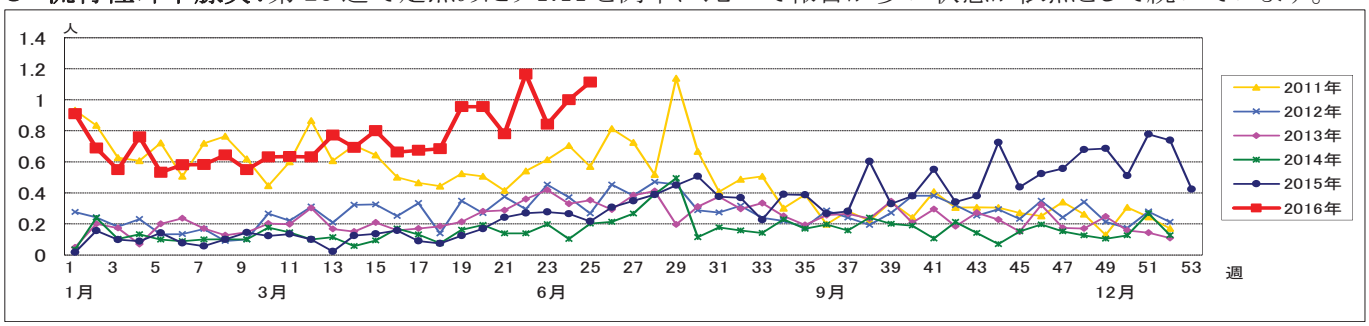
1　**咽頭結膜熱**：第 23 週で定点あたり 1.08 をピークとして推移しています。例年に比べて報告が多い状況が続いています。



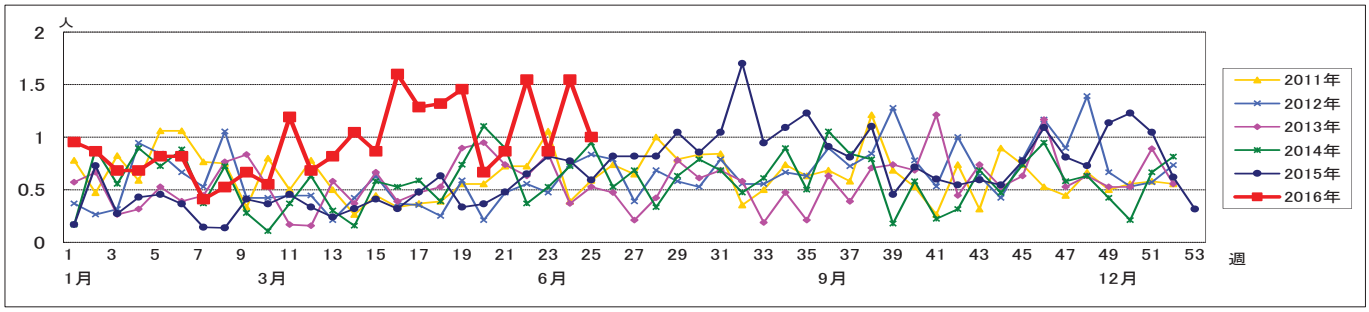
2　**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：第 21 週で定点あたり 2.82 でしたが、その後、第 24 週で 2.39、第 25 週で 2.10 と減少傾向にあります。



3　**流行性耳下腺炎**：第 25 週で定点あたり 1.11 と例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**流行性角結膜炎**：第 24 週で定点あたり 1.55、第 25 週で 1.00 と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



5　**性感染症**：5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 30 件、女性が 16 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 4 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 8 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 1 件でした。

6　**基幹定点週報**：無菌性髄膜炎は第 24 週 0.25 と今年初めて報告がありました。マイコプラズマ肺炎は第 22 週 0.50、第 23 週 0.33、第 24 週 0.50、第 25 週 0.00 と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第 22 週 0.50、第 23 週 1.00、第 24 週 0.25、第 25 週 0.33 と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7　**基幹定点月報**：5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 6 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 2 件、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 7 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 7 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **ヘルパンギーナの流行警報が発令されました。**
- **流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。**
- **腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。**

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

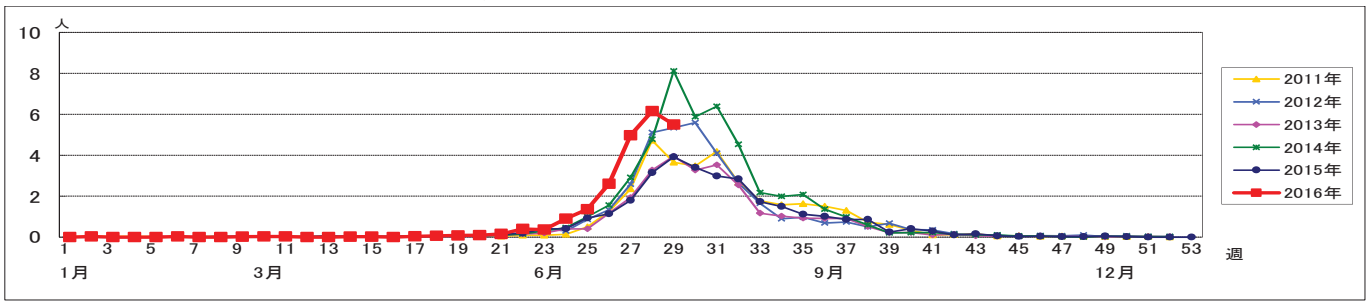
細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	4 件
腸管出血性大腸菌感染症	14 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	3 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
レジオネラ症	4 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	3 件	梅毒	6 件
ウイルス性肝炎	1 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 件

1 **細菌性赤痢:**1 件の報告があり、ベトナムでの経口感染が推定されています。
2 **腸管出血性大腸菌感染症:**14 件の報告があり(うち 5 件は無症状病原体保有者)、いずれも O157 でした。4 件は同居家族です。
3 **E 型肝炎:**1 件の報告があり、感染経路等不明でした。
4 **A 型肝炎:**1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
5 **デング熱:**1 件の報告があり、インドネシアでの感染が推定されています。
6 **レジオネラ症:**4 件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
7 **アメーバ赤痢:**3 件の報告があり、1 件は異性間の性的接触、2 件は感染経路等不明でした。
8 **ウイルス性肝炎:**1 件のＢ型の報告があり、国内での性的接触によるものと推定されます。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
9 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**4 件の報告があり、うち 2 件は医療器具等関連感染、1 件は以前からの保菌と推定され、1 件は感染経路等不明でした。
10 **急性脳炎:**4 件の乳幼児の報告がありました。1 件はアデノウイルス疑い、3 件は病原体不明です。
11 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:A 群が 1 件報告され、接触感染または創傷感染が推定されています。
12 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**3 件の報告があり、うち 1 件が AIDS、2 件が無症状病原体保有者でした。感染経路は、同性間の性的接触が 2 件、感染経路等不明が 1 件でした。
13 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:**1 件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
14 **侵襲性肺炎球菌感染症:**4 件の報告があり、うち 1 件はワクチン接種歴が確認されましたが、3 件についてワクチン接種歴は確認できませんでした。
15 **水痘(入院例に限る):**高齢者の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
16 **梅毒:**6 件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 4 件)があり、うち 5 件が国内感染例で、1 件は感染地域不明でした。
17 **風しん:**小児の報告が 1 件で、ワクチン接種歴がありました。
18 **薬剤耐性アシネトバクター感染症:**高齢者の報告が 1 件ありました。感染経路等不明でした。

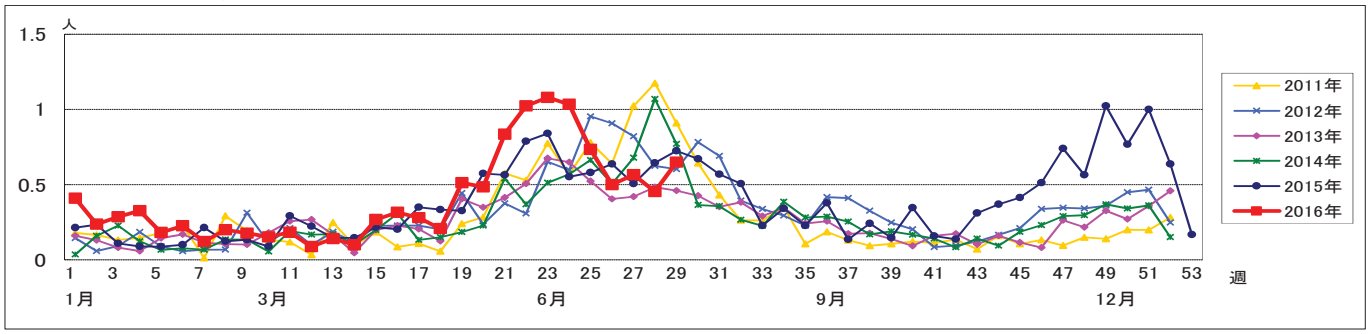
定点把握の対象

平成 28 年　週－月日対照表	
第 26 週	6 月 27 日～7 月 3 日
第 27 週	7 月　4 日～10 日
第 28 週	7 月 11 日～17 日
第 29 週	7 月 18 日～24 日

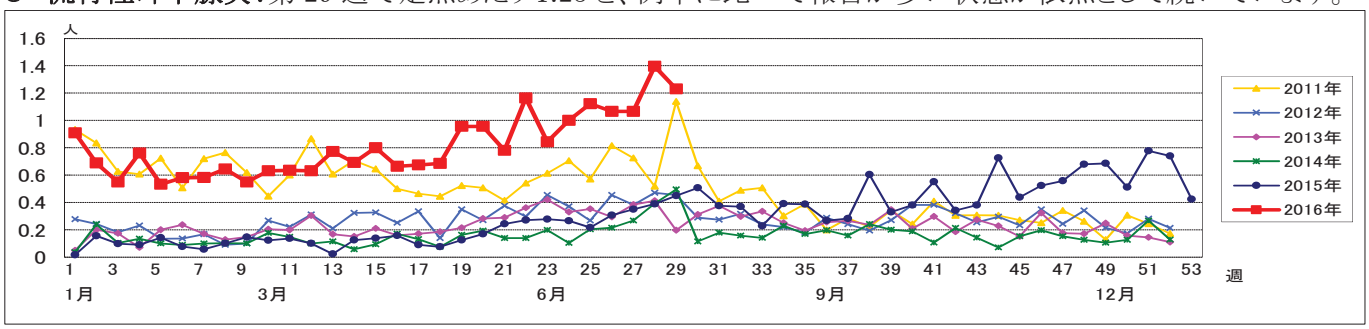
1　**ヘルパンギーナ**:第 28 週にて市全体で定点あたり 6.15 となり、流行警報発令基準値(6.00)を上回りました(終息基準値は 2.00)。第 29 週は 5.49 と、例年と比較して報告が多い状態となっています。市内の患者からはコクサッキーA 群ウイルスが検出されています。



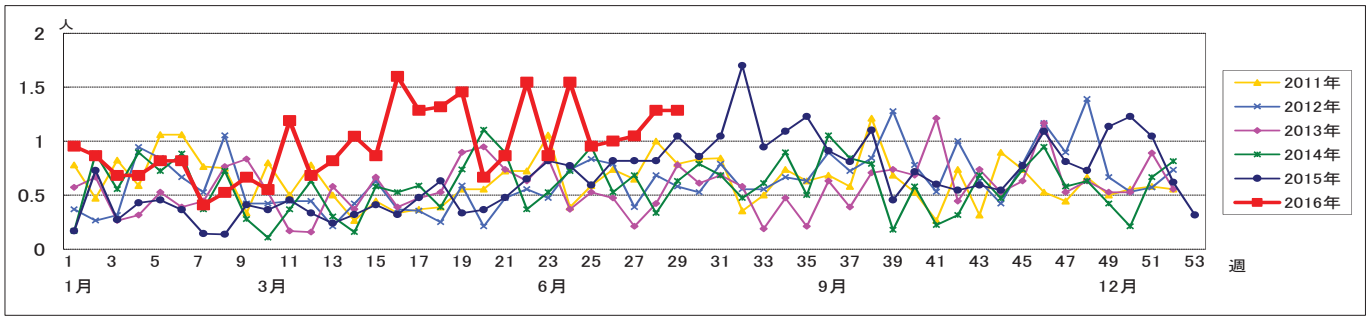
2　**咽頭結膜熱**:第 23 週の定点あたり 1.08 をピークとして推移しています。



3　**流行性耳下腺炎**:第 29 週で定点あたり 1.23 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**流行性角結膜炎**:第 28 週で定点あたり 1.29、第 29 週で 1.29 と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



5　**性感染症**:6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 29 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 3 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 1 件でした。

6　**基幹定点週報**:無菌性髄膜炎は第 26 週 0.00、第 27 週 0.33、第 28 週 0.00、第 29 週 0.00 と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第 26 週 0.25、第 27 週 0.33、第 28 週 1.33、第 29 週 0.33 と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7　**基幹定点月報**:6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 9 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 8 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 8 月 25 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- ヘルパンギーナの流行警報が発令されています。
- RS ウイルス感染症が例年より早く増加傾向となっています。
- 流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

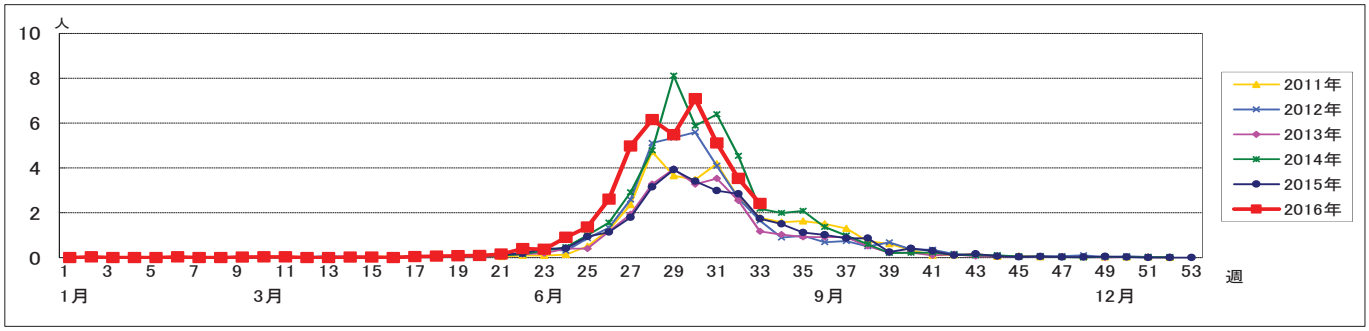
細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	22 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	3 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	5 件
レジオネラ症	5 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	6 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
ウイルス性肝炎（E 型および A 型を除く）	1 件	梅毒	10 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件		

1 **細菌性赤痢**：1 件の報告があり、ミャンマーでの経口感染が推定されています。
2 **腸管出血性大腸菌感染症**：22 件の報告のうち（5 件は無症状病原体保有者）、O157 が 20 件、O145 と O26 が 1 件ずつで、家族内発生事例も報告されています。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状のある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
3 **E 型肝炎**：3 件の報告があり、2 件が経口感染と推定され、1 件は感染経路等不明でした。
4 **レジオネラ症**：5 件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
5 **アメーバ赤痢**：6 件の報告があり、1 件は国内の詳細不明の性的接触、2 件が国内での経口感染、2 件がタイでの経口感染が推定され、1 件は感染経路等不明でした。
6 **ウイルス性肝炎（E 型および A 型を除く）**：C 型の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：5 件の報告があり、うち 2 件は医療器具等関連感染、2 件は以前からの保菌と推定され、1 件は感染経路等不明でした。
8 **急性脳炎**：2 件の乳幼児の報告がありました。いずれも病原体不明です。
9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：G 群が 1 件報告され、創傷感染が推定されています。
10 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**：5 件の報告があり、うち 1 件が AIDS、3 件が無症状病原体保有者、その他が 1 件でした。感染経路は、同性間の性的接触が 2 件、異性間の性的接触が 2 件、感染経路等不明が 1 件でした。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：1 件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：4 件の報告があり、うち 1 件はワクチン接種歴が確認されましたが、3 件についてワクチン接種歴は確認できませんでした。
13 **梅毒**：10 件の報告（無症状病原体保有者 3 件、早期顕症梅毒 I 期 2 件、早期顕症梅毒 II 期 5 件）があり、いずれも国内の性的接触でした。同性間が 1 件、異性間が 8 件、詳細不明が 1 件でした。

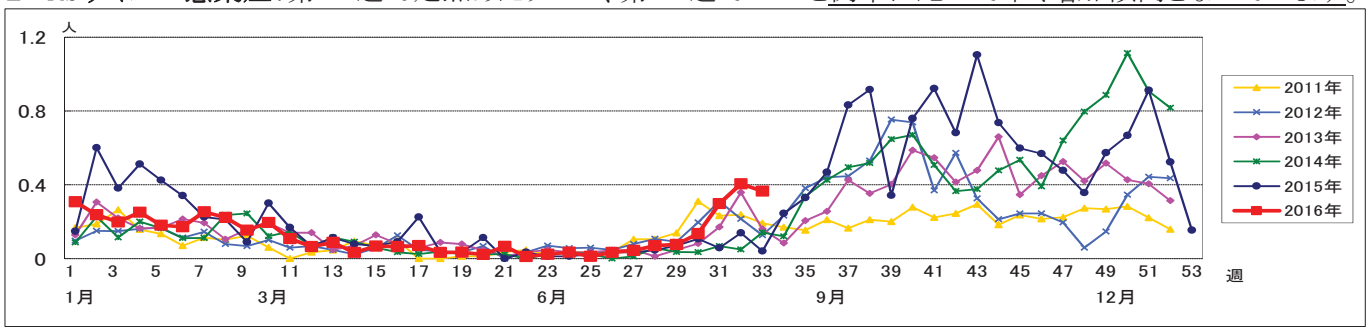
平成 28 年　週ー月日対照表	
第 30 週	7 月 25 日～31 日
第 31 週	8 月　1 日～ 7 日
第 32 週	8 月　8 日～14 日
第 33 週	8 月 15 日～21 日

定点把握の対象

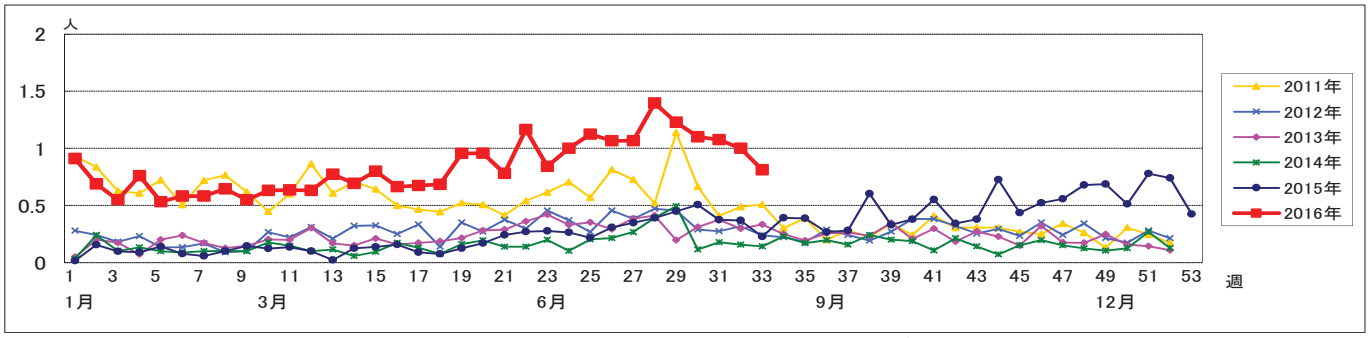
1　**ヘルパンギーナ**:第 28 週にて市全体で定点あたり 6.15 となり、流行警報発令基準値(6.00)を上回りました。第 30 週に 7.08 となって以降は減少し、第 33 週は 2.41 となっています(警報終息基準値は 2.00)。



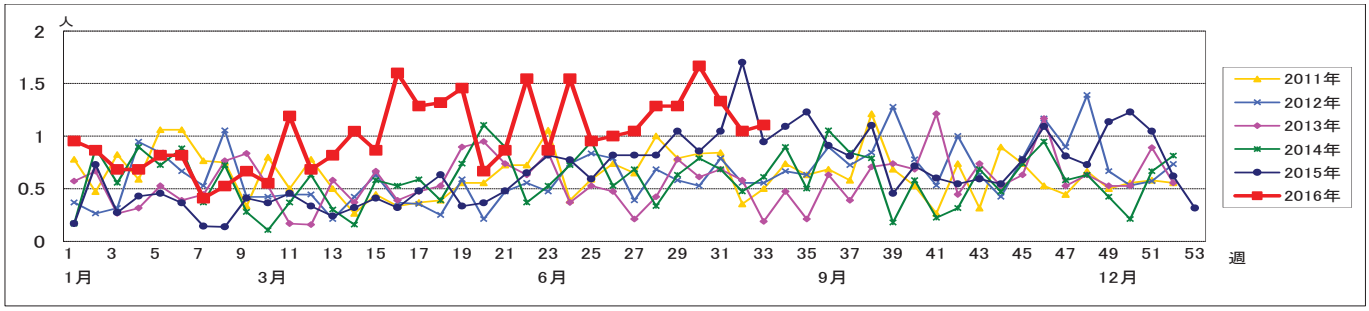
2　**RS ウイルス感染症**:第 31 週で定点あたり 0.30、第 32 週で 0.40 と例年に比べて早く増加傾向となっています。



3　**流行性耳下腺炎**:第 33 週で定点あたり 0.81 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**流行性角結膜炎**:第 33 週で定点あたり 1.11 と、例年に比べて報告が多い状態が続いています。



5　**性感染症**:7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 20 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 3 件、女性が 9 件です。尖圭コンジローマは男性 10 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 18 件、女性が 1 件でした。

6　**基幹定点週報**:無菌性髄膜炎は第 30 週 0.00、第 31 週 0.00、第 32 週 0.00、第 33 週 0.33 と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第 30 週 0.33、第 31 週 1.67、第 32 週 0.00、第 33 週 0.33 と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7　**基幹定点月報**:7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 9 月 29 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **RS ウイルス感染症が急激かつ大幅に増加しています。**
- **腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。**
- **流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。**
- **ヘルパンギーナの流行警報が解除されました。**

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	23 件	急性脳炎	2 件
E 型肝炎	1 件	クリプトスポリジウム症	1 件
A 型肝炎	2 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
デング熱	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
レジオネラ症	6 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	7 件
アメーバ赤痢	8 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
ウイルス性肝炎（E 型および A 型を除く）	1 件	梅毒	18 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：23 件の報告のうち（9 件は無症状病原体保有者）、O157 が 20 件、O121 が 2 件、O 不明が 1 件で、家族内発生事例も報告されています。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状のある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

2 **E 型肝炎**：1 件の報告があり、感染経路等不明でした。

3 **A 型肝炎**：2 件の経口感染の報告があり、1 件が国内、1 件がバングラデシュでの感染と推定されています。

4 **デング熱**：1 件の報告があり、インドでの感染と推定されています。

5 **レジオネラ症**：6 件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。

6 **アメーバ赤痢**：8 件の報告があり、1 件は国内での異性間の性的接触、2 件が国内での経口感染が推定され、5 件は感染経路等不明でした。

7 **ウイルス性肝炎（E 型および A 型を除く）**：B 型の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。ワクチン接種歴は確認できませんでした。

8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：7 件の報告があり、うち 2 件は手術部位感染、1 件は医療器具等関連感染、2 件は以前からの保菌と推定され、2 件は感染経路等不明でした。

9 **急性脳炎**：2 件の幼児の報告がありました。

10 **クリプトスポリジウム症**：1 件の報告があり、動物からの感染が推定されています。

11 **クロイツフェルト・ヤコブ病**：家族性 CJD の報告が 1 件ありました。

12 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：B 群が 1 件、G 群が 1 件報告され、創傷感染が推定されています。

13 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**：7 件の報告があり、うち 3 件が AIDS、3 件が無症状病原体保有者、その他が 1 件でした。感染経路は、同性間の性的接触が 4 件、異性間の性的接触が 2 件、感染経路等不明が 1 件でした。

14 **侵襲性肺炎球菌感染症**：5 件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

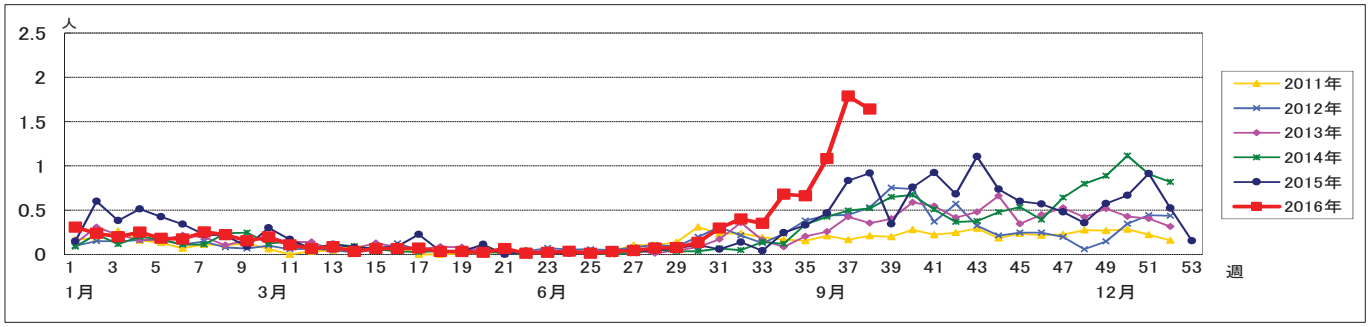
15 **梅毒**：18 件の報告（無症状病原体保有者 7 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 9 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件）がありました。感染経路は、性的接触が 17 件（異性間 12 件、詳細不明 5 件）、感染経路等不明が 1 件でした。

16 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**：1 件の報告があり、感染経路等不明です。

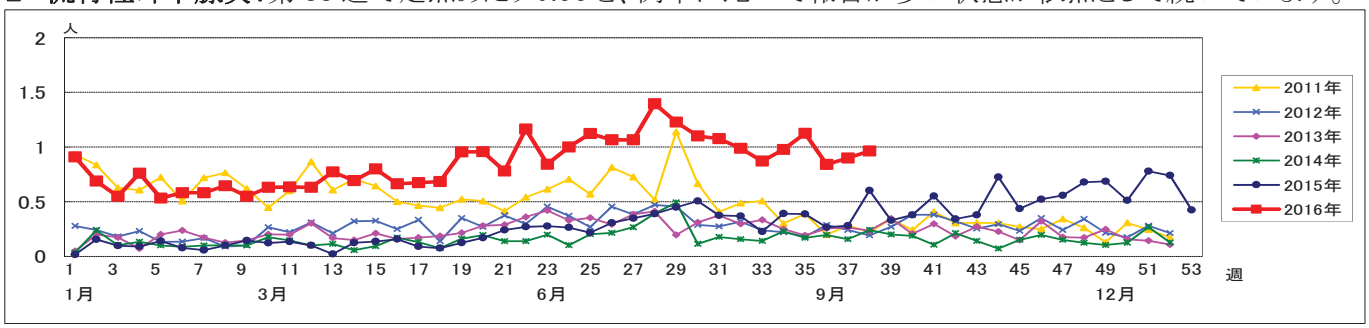
平成 28 年　週－月日対照表	
第 34 週	8 月 22 日～28 日
第 35 週	8 月 29 日～9 月 4 日
第 36 週	9 月 5 日～11 日
第 37 週	9 月 12 日～18 日
第 38 週	9 月 19 日～25 日

定点把握の対象

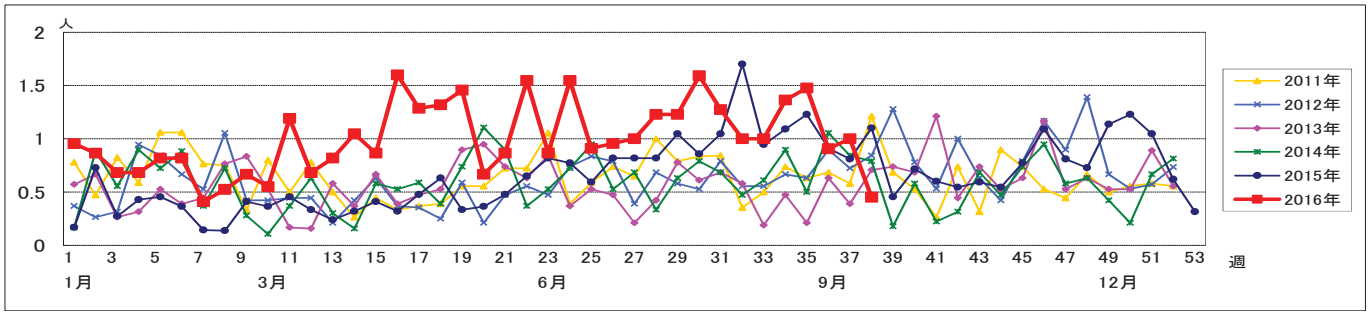
1　**RS ウイルス感染症**：第 37 週で定点あたり 1.79、第 38 週で 1.64 と、例年に比べて急激かつ大幅に増加しています。



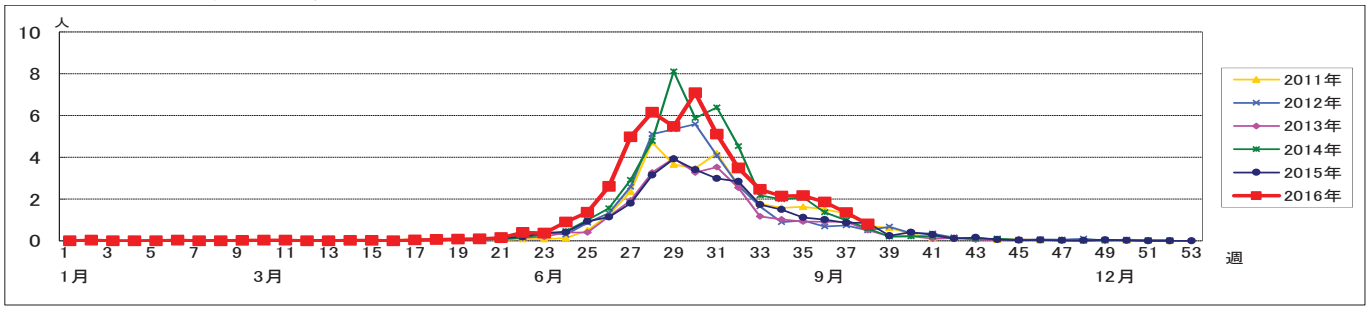
2　**流行性耳下腺炎**：第 38 週で定点あたり 0.96 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



3　**流行性角結膜炎**：第 36 週で定点あたり 0.90、第 37 週で 1.00 と、例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、第 38 週では 0.45 に減少しています。



4　**ヘルパンギーナ**：第 28 週にて市全体で定点あたり 6.15 となり、流行警報が発令されましたが、第 36 週に 1.85 となり、流行警報は解除されました（発令基準値：6.00、終息基準値：2.00）。



5　**性感染症**：8 月は、性器クラミジア感染症は男性が 21 件、女性が 10 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 5 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 1 件でした。

6　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 34 週 1.00、第 35 週 1.33、第 36 週 2.33、第 37 週 0.33、第 38 週 0.50 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）の報告はありませんでした。

7　**基幹定点月報**：8 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 13 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 10 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 10 月 24 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **例年より早い時期にインフルエンザの報告数が増加しています。**
- **RS ウイルス感染症の報告数が急増し、依然として例年より大幅に多い状態が続いています。**
- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。**

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

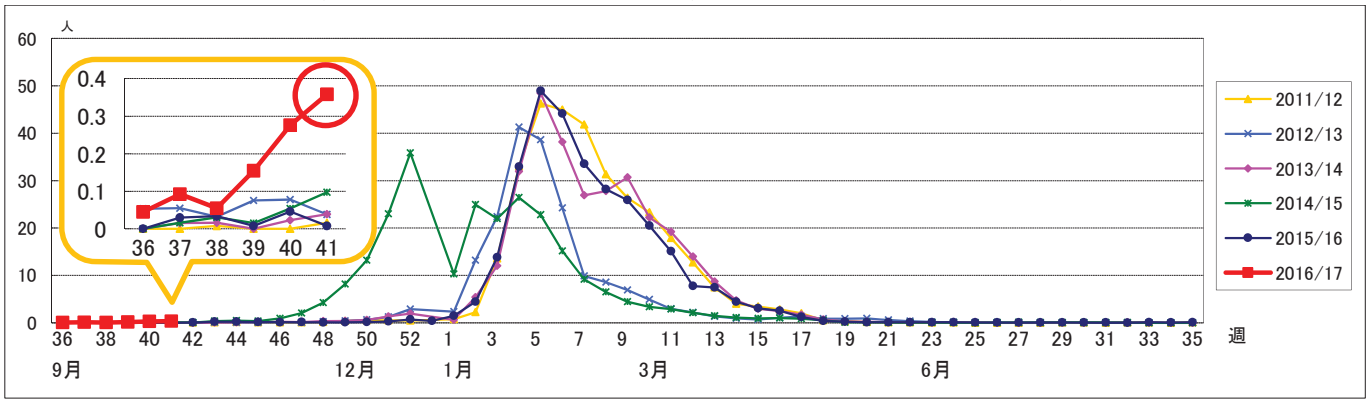
腸管出血性大腸菌感染症	5 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	1 件
レジオネラ症	6 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 件	水痘（入院例に限る）	2 件
急性脳炎	1 件	梅毒	16 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症：**O157 の報告が 5 件あり、うち 3 件は無症状病原体保有者でした。
2 **レジオネラ症：**6 件の肺炎型の報告がありました。
3 **アメーバ赤痢：**2 件の報告があり、1 件は国外での経口感染が推定され、1 件は感染経路等不明でした。
4 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**1 件の報告があり、感染経路等不明でした。
5 **急性脳炎：**1 件の報告があり、病原体不明でした。
6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症：**G 群が 1 件報告され、感染経路等不明でした。
7 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）：**同性間の性的接触による無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症：**1 件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
9 **侵襲性肺炎球菌感染症：**4 件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
10 **水痘（入院例に限る）：**臨床診断例が 1 件、検査診断例が 1 件報告されています。臨床診断例はワクチン接種歴が確認されましたが、検査診断例はワクチン接種歴が確認できませんでした。
11 **梅毒：**16 件の報告（無症状病原体保有者 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 7 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 7 件）がありました。うち国内の感染が 15 件、感染地域不明 1 件でした。感染経路は、同性間性的接触が 2 件、異性間性的接触が 10 件、詳細不明の性的接触が 2 件、感染経路不明が 2 件でした。
12 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症：**1 件の報告があり、以前からの保菌と推定されています。

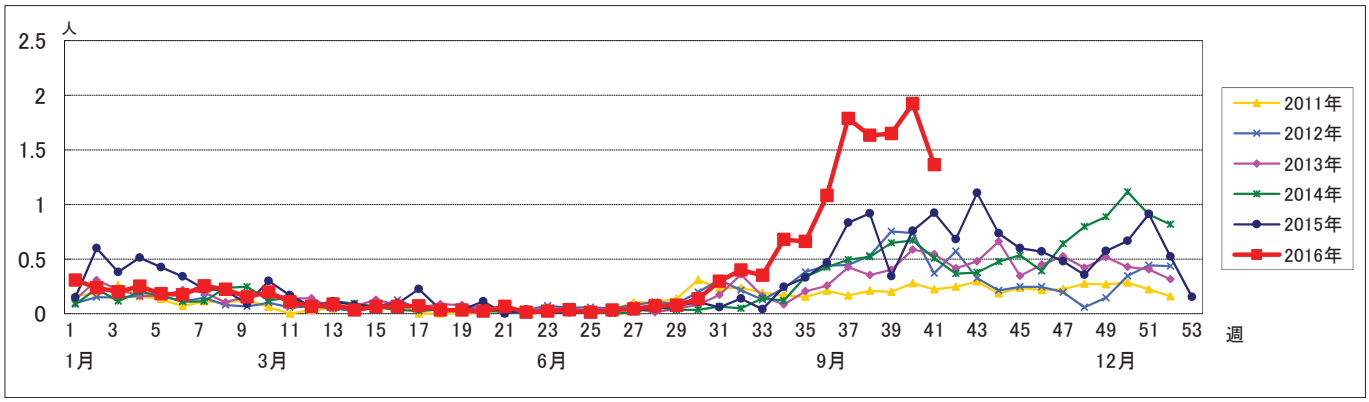
平成 28 年　週－月日対照表	
第 39 週	9 月 26 日～10 月 2 日
第 40 週	10 月　3 日～ 9 日
第 41 週	10 月 10 日～16 日

定点把握の対象

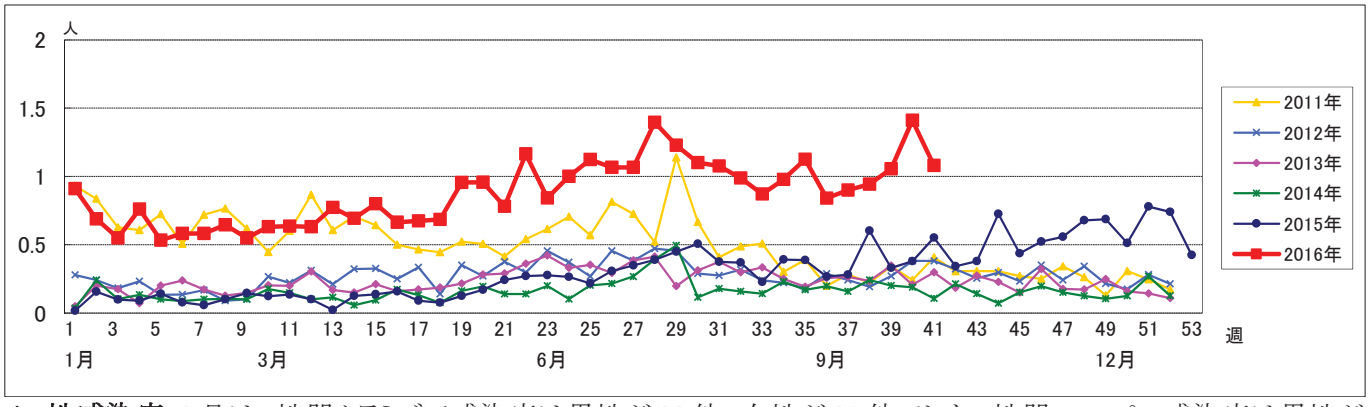
1　**インフルエンザ**：第 39 週で定点あたり 0.15、第 40 週で 0.28、第 41 週で 0.36 と、例年に比べて早期に報告が増加しています。また、第 40 週で 2016/17 シーズン初の学級閉鎖の報告がありました（2015/16 シーズン、2014/15 シーズンは第 43 週、2013/14 シーズンは第 50 週、2012/13 シーズンは第 2 週）。



2　**RS ウイルス感染症**：第 40 週までに定点あたり 1.92 と、例年に比べて急激かつ大幅に増加しており、第 41 週も 1.36 と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



3　**流行性耳下腺炎**：第 41 週で定点あたり 1.08 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**性感染症**：9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 29 件、女性が 20 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 9 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 8 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 9 件、女性が 2 件でした。

5　**基幹定点週報**：無菌性髄膜炎は第 39 週 0.25、第 40 週 0.00、第 41 週 0.00 と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第 39 週 1.00、第 40 週 0.00、第 41 週 3.00 と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 8 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が 1 件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 11 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 11 月 24 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- 例年より早い時期に感染性胃腸炎の報告が増加しています。
- インフルエンザの報告数が増加しています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

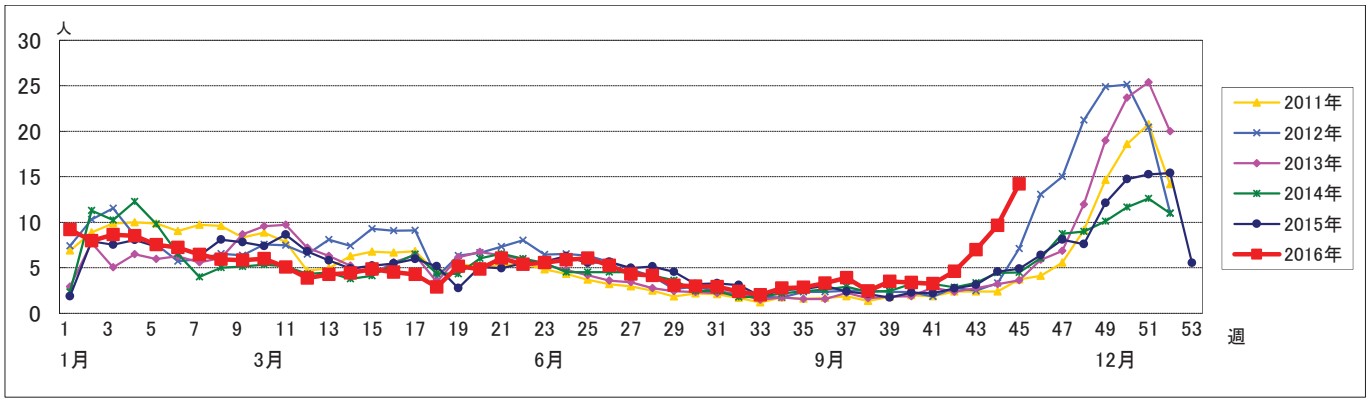
腸管出血性大腸菌感染症	12 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 件
デング熱	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	4 件
マラリア	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	11 件
レジオネラ症	5 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	14 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
急性脳炎	2 件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症:**O157 の報告が 11 件(うち 3 件は無症状病原体保有者)、O111 が 1 件でした。O157 の 9 件(うち 3 件は無症状病原体保有者)は共通の食品によるものでした。
2 **デング熱:**1 件の報告があり、インドネシアでの感染が推定されています。
3 **マラリア:**1 件の報告があり、ガーナまたはセネガルでの感染が推定されています。
4 **レジオネラ症:**5 件の肺炎型の報告がありました。
5 **アメーバ赤痢:**4 件の報告があり、うち 1 件は国内での同性間の性的接触、1 件は経口感染(地域不明)が推定され、2 件は感染経路等不明でした。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**6 件の報告があり、感染経路等不明でした。
7 **急性脳炎:**2 件の幼児の報告があり、病原体は不明でした。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 6 件が報告され、うち 4 件が A 群、1 件が B 群、1 件が G 群でした。
9 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**同性間の性的接触による AIDS が 1 件、無症状病原体保有者の報告が 2 件、感染経路不明の無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
10 **侵襲性肺炎球菌感染症:**11 件の報告があり、うち 0 歳児および 2 歳児についてはワクチン接種歴が確認されましたが、9 件(40～90 歳代)ではいずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
11 **水痘(入院例に限る):**臨床診断例が 1 件報告され、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
12 **梅毒:**14 件の報告(無症状病原体保有者 5 件、早期顕症梅毒 I 期 3 件、早期顕症梅毒 II 期 6 件)がありました。いずれも国内での感染で、男性 7 件、女性 7 件でした。感染経路は、異性間性的接触が 10 件、同性間性的接触が 3 件、詳細不明の性的接触が 1 件でした。
13 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症:**1 件の報告があり、感染経路等不明です。

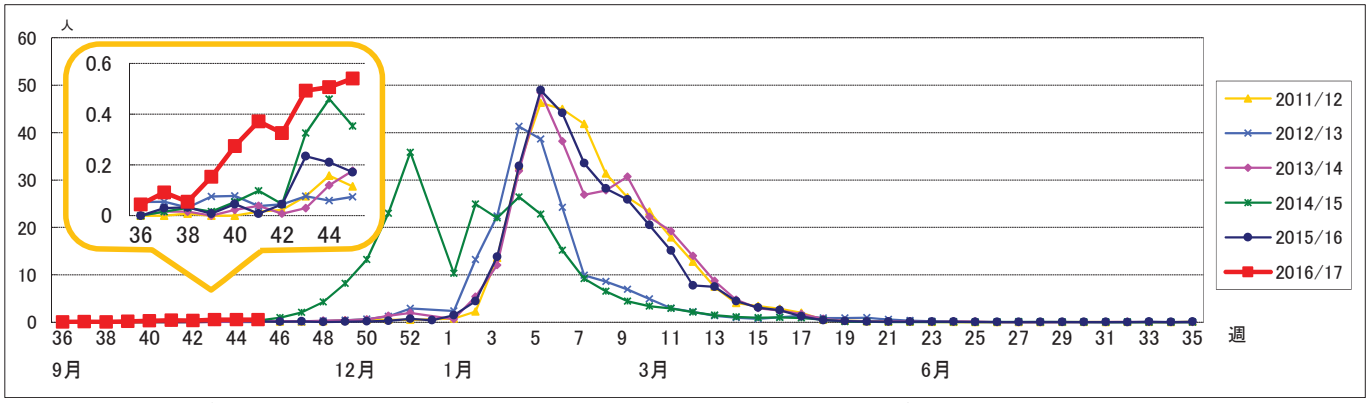
平成 28 年　週－月日対照表	
第 42 週	10 月 17 日～10 月 23 日
第 43 週	10 月 24 日～　　30 日
第 44 週	10 月 31 日～11 月 6 日
第 45 週	11 月　7 日～　　13 日

定点把握の対象

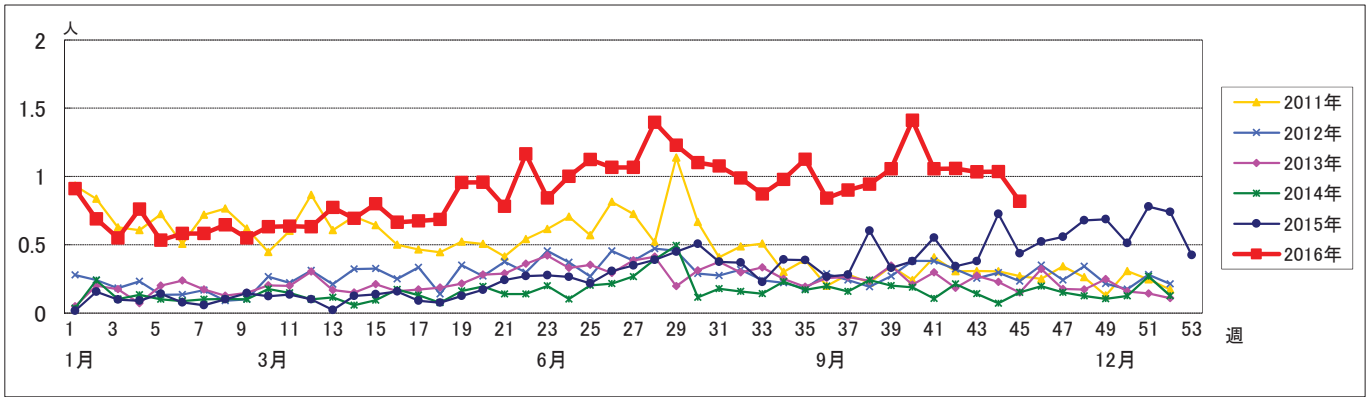
1　**感染性胃腸炎**：第 45 週までに定点あたり 14.19 と、例年に比べて早く増加しています。保育園、幼稚園等における集団発生も多く報告されており、ノロウイルスが検出されています。



2　**インフルエンザ**：第 39 週で定点あたり 0.15、第 40 週で 0.27、第 41 週で 0.37 と、例年に比べて早期に報告が増加し、第 45 週では 0.54 となっています。



3　**流行性耳下腺炎**：第 45 週で定点あたり 0.82 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**性感染症**：10 月は、性器クラミジア感染症は男性が 33 件、女性が 18 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 17 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 5 件でした。淋菌感染症は男性が 15 件、女性が 0 件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 42 週 1.75、第 43 週 1.50、第 44 週 2.00、第 45 週 1.50 と報告されています。インフルエンザによる入院は第 42 週 0.25、第 43 週 0.00、第 44 週 0.00、第 45 週 0.50 と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：10 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 3 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が 2 件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 28 年 12 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 28 年 12 月 22 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **例年より早い時期に感染性胃腸炎流行警報が発令されました。**
- **例年より早い時期にインフルエンザの流行期に入りました。**
- **流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が依然として続いています。**

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

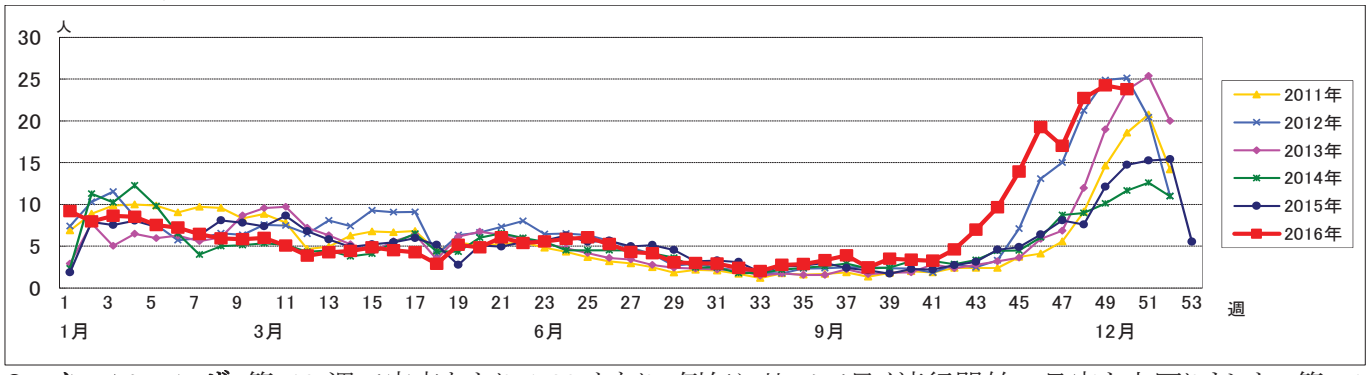
腸管出血性大腸菌感染症	5 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
A 型肝炎	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
ジカウイルス感染症	1 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	6 件
デング熱	1 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	7 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	10 件	侵襲性肺炎球菌感染症	14 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8 件	梅毒	11 件
急性脳炎	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：共通食品の喫食による O157 の報告が 4 件（うち 1 件は HUS 、1 件は無症状病原体保有者）、O111 の報告（無症状病原体保有者）が 1 件でした。
2 **A 型肝炎**：2 件の報告があり、1 件は国内、1 件は国内またはチリでの感染が推定されています。
3 **ジカウイルス感染症**：1 件の報告があり、キューバでの蚊からの感染が推定されています。
4 **デング熱**：1 件の報告があり、フィリピンでの蚊からの感染が推定されています。
5 **レジオネラ症**：7 件の肺炎型の報告がありました。
6 **アメーバ赤痢**：10 件の報告があり、うち 1 件は国内での異性間の性的接触、3 件は経口感染（2 件は国内、1 件は東南アジア）が推定され、6 件は感染経路等不明でした。
7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：8 件の報告があり、感染経路等不明でした。
8 **急性脳炎**：1 件の幼児の報告があり、病原体は不明でした。
9 **クロイツフェルト・ヤコブ病**：古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
10 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**： 2 件が報告され、うち 1 件が B 群、1 件が G 群でした。
11 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**：いずれも性的接触によるもので、AIDS が 2 件（同性間が 1 件、異性間が 1 件）、無症状病原体保有者の報告が 4 件（同性間 2 件、異性間 1 件、性別不詳 1 件）ありました。
12 **ジアルジア症**：1 件の報告があり、感染経路および感染地域は不明です。
13 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：1 件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
14 **侵襲性肺炎球菌感染症**：14 件の報告があり、うち 0 歳児および 2 歳児についてはワクチン接種歴が確認されました。12 件（40～80 歳代）では 3 件がワクチン接種歴を確認できましたが、9 件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
15 **梅毒**：11 件の報告（無症状病原体保有者 1 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 4 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 6 件）がありました。いずれも国内での感染で、男性 9 件、女性 2 件でした。感染経路は、すべて異性間性的接触でした。
16 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**：1 件の報告があり、感染経路等不明です。

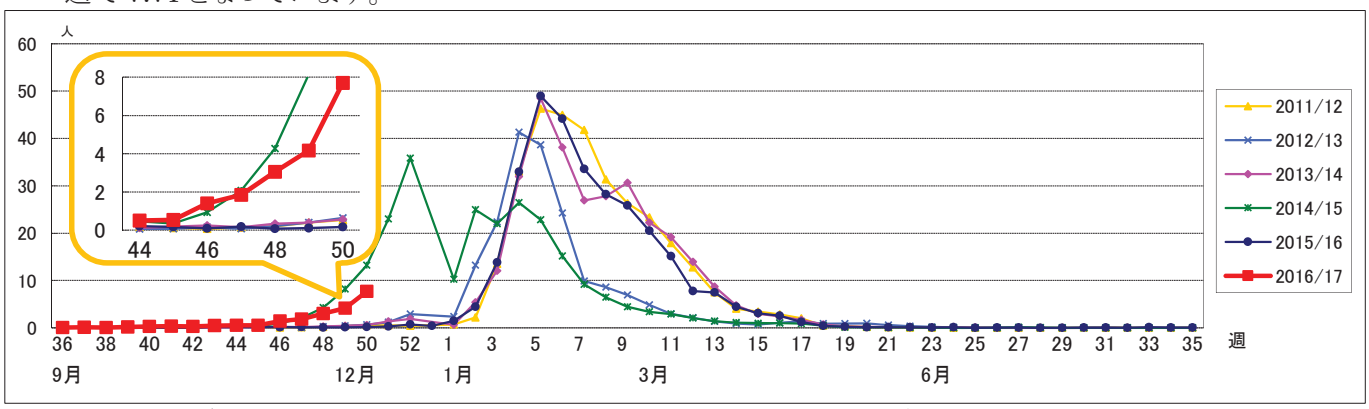
平成 28 年　週－月日対照表	
第 46 週	11 月 14 日～　20 日
第 47 週	11 月 21 日～　27 日
第 48 週	11 月 28 日～12 月 4 日
第 49 週	12 月　5 日～　11 日
第 50 週	12 月 12 日～　18 日

定点把握の対象

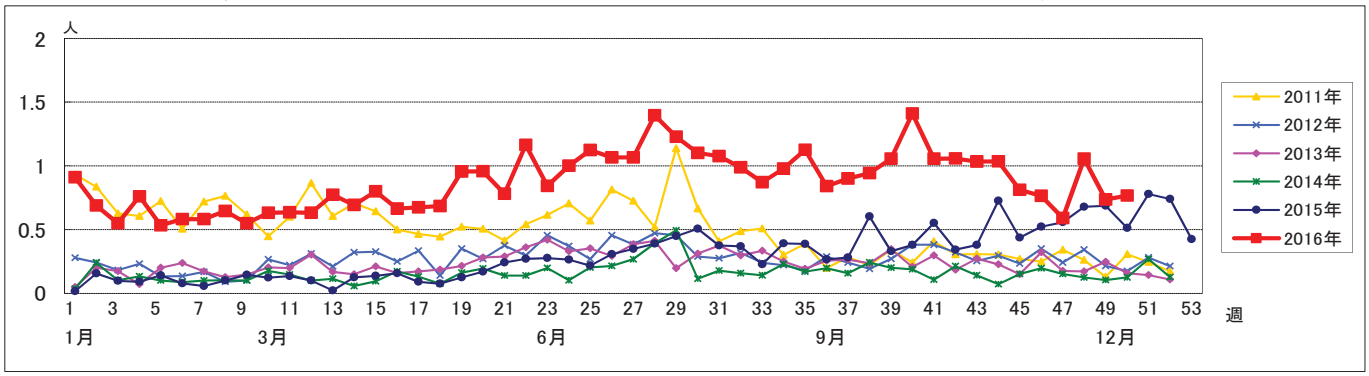
1　**感染性胃腸炎**：第 48 週で定点あたり 22.73 と、例年に比べて早く警報発令基準値を上回りました。保育園、幼稚園等における集団発生も多く報告されており、ノロウイルス GⅡが検出されています。第 50 週は 23.78 と依然として報告数の高い状態で推移しています。



2　**インフルエンザ**：第 46 週で定点あたり 1.39 となり、例年に比べて早く流行開始の目安を上回りました。第 50 週で 7.71 となっています。



3　**流行性耳下腺炎**：第 50 週で定点あたり 0.77 と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**性感染症**：11 月は、性器クラミジア感染症は男性が 27 件、女性が 6 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 9 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 11 件、女性が 1 件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第 46 週 1.00、第 47 週 1.67、第 48 週 1.75、第 49 週 0.50、第 50 週 1.75 と報告されています。インフルエンザによる入院は第 46 週 0.33、第 47 週 0.67、第 48 週 1.50、第 49 週 0.75、第 50 週 2.75 と報告されています。無菌性髄膜炎は第 46 週 0.00、第 47 週 0.00、第 48 週 0.25、第 49 週 0.00、第 50 週 0.00 と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第 46 週 0.00、第 47 週 0.00、第 48 週 0.00、第 49 週 0.25、第 50 週 0.00 と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：11 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 5 件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

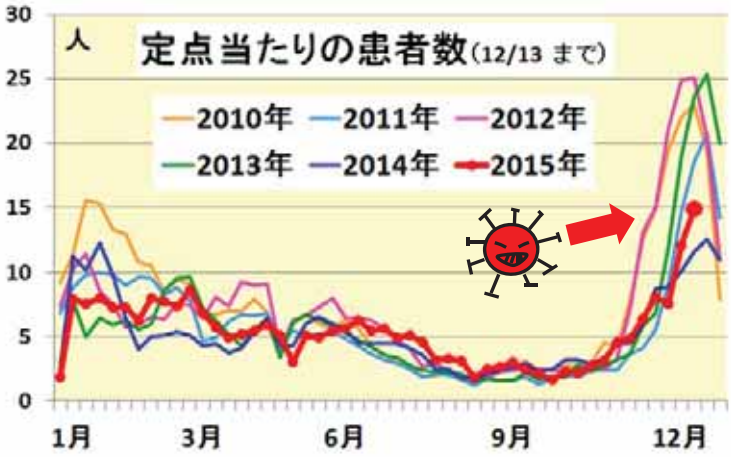
感染症に気をつけよう！

2016年【1月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
感染性胃腸炎	流行	増加	ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は嘔吐・下痢等です。既に3区で警報レベルの報告数です。【'15.12号】
咽頭結膜熱（プール熱）	流行	増加	この時期としては大変多いです。鼻水・目やに等からうつるので、手洗いを習慣づけ、タオルは専用にしましょう。【チラシ】
RSウイルス感染症	やや流行	横ばい	例年より多い状況が継続中です。繰り返しかかったり重症化も起きます。予防には正しい手洗いが大切です。【'15.10号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	増加	風邪に似た症状ですが、腎炎等の合併症もみられます。警報レベルの区もあり、年末にかけて注意が必要です。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 ノロウイルスによる感染性胃腸炎



■今シーズンは、新しいタイプのノロウイルス（遺伝子型GⅡ.17の変異型）が、全国的に流行の中心になるとみられていて、国が注意を呼びかけています。■この変異型ウイルスは市内でも検出されており、引き続き注意が必要です。

■ノロウイルスは患者の便や嘔吐物に含まれ、手や食物を介して、ごく少量のウイルスが口から体内に入っただけで感染します。■症状が治った後や、感染しても症状が出なかったケース（不顕性感染）でも、ウイルスは便の中に排出されています。

■予防方法としては、正しい手洗いが重要です。消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを使います。■患者の便や嘔吐物の処理は、感染を広げてしまう恐れがあるため、特に慎重に行いましょう。■食品の調理では、中心部までよく加熱（85～90℃で90秒以上）すれば安心です。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【2月号】

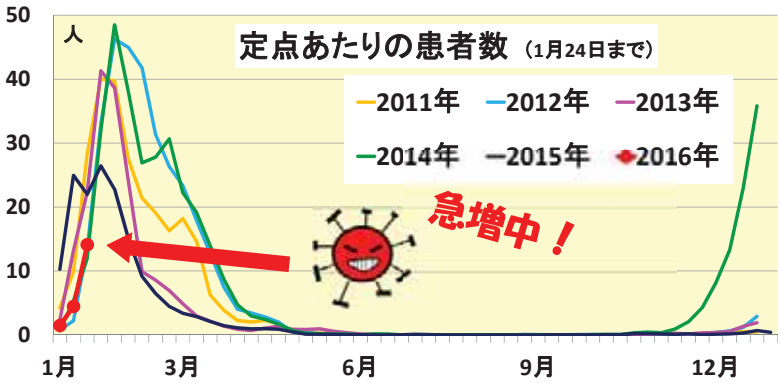
横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号】
インフルエンザ	流行	増加	1 月末に注意報が出ています。今後、本格的な流行が予想され、予防や早期受診など十分な注意が必要です。【'15.2 号】
感染性胃腸炎	流行	横ばい	多発している区や、集団発生もまだ報告されています。手洗いを習慣づけ、引き続き注意しましょう。【'16.1 号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

■ 患者の年齢では 10 歳未満の増加が目立ち、中でも 5 歳以上の集団生活を送っている子供が多くなっています。

■ 学級閉鎖や、入院が必要な重症化例も増加しています。



■ 予防の基本は正しい手洗いです。また、普段から栄養と睡眠をしっかり取って、抵抗力を高めておきましょう。

■ インフルエンザワクチンは予防方法として大切です。症状が出る可能性を減らし、症状が出ても重症化を防ぐ効果があります。かかりつけ医に相談して、早目に接種しましょう。

■ もし症状が出てしまったら、周囲の人に感染を広げないよう咳エチケットを守り、早目に受診してください。

■ 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。学校等については、「症状が出てから 5 日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後 2 日間（幼児は 3 日間）は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

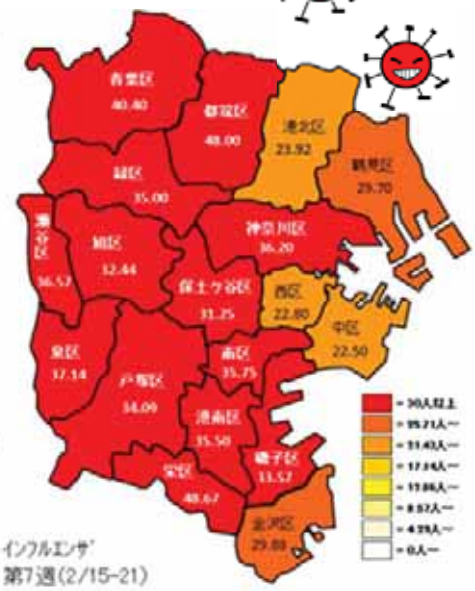
感染症に気をつけよう！

2016年【3月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
インフルエンザ	大流行	やや減少	依然として警報レベルです。重症になって入院するケースの報告も、続いています。引き続き注意しましょう。　【'16.2 号】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	例年より多い状況が継続しています。予防には手洗いが大事です。1 歳から予防接種が受けられます。　【ワクチンちらし】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 地図の色が濃いほど、患者報告数が多くなっています。まだ、市内全域で警戒が必要な流行が継続中です。
- 今まではインフルエンザA型が流行の中心でしたが、ウイルス検査の結果等から、これからはB型が主流になると思われます。

- 特に、子供と高齢者で入院例が多く、重症化に十分な注意が必要です。
- 予防の基本は正しい手洗いです。また、普段から栄養と睡眠をしっかり取って抵抗力を高めておきましょう。

- もし症状が出てしまったら、周囲に感染を広げないように咳エチケットを守り、早目に受診してください。
- 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。

学校等については、「症状が出てから 5 日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後 2 日間（幼児は 3 日間）は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

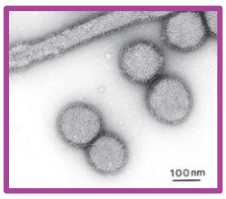
感染症に気をつけよう！

2016年【4月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
インフルエンザ	流行	減少	報告は減少傾向ですが、重症例もあります。まだ、しばらく流行が継続すると考えられるので、警戒が必要です。【'16.3 号】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	例年に比べ多い状況が続いています。予防には手洗いが大事です。1 歳から予防接種が受けられます。【ワクチンちらし】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡像
国立感染症研究所ホームページより

現在の流行の中心は、インフルエンザB型です。同じシーズン中にA型とB型の両方にかかる可能性もあります。
子供と高齢者では、重症化に特に注意が必要です。

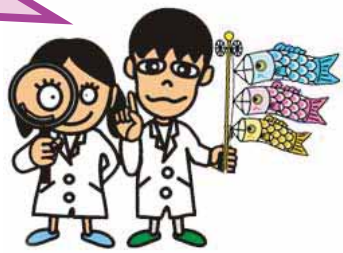
予防の基本は正しい手洗いです。
もし症状が出てしまったら、周囲に感染を広げないように咳エチケットを守り、早目に受診してください。

抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。
学校等は、「症状が出てから 5 日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後 2 日間（幼児は 3 日間）は休むこと」とされています。
かかりつけ医に相談しましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【5月号】



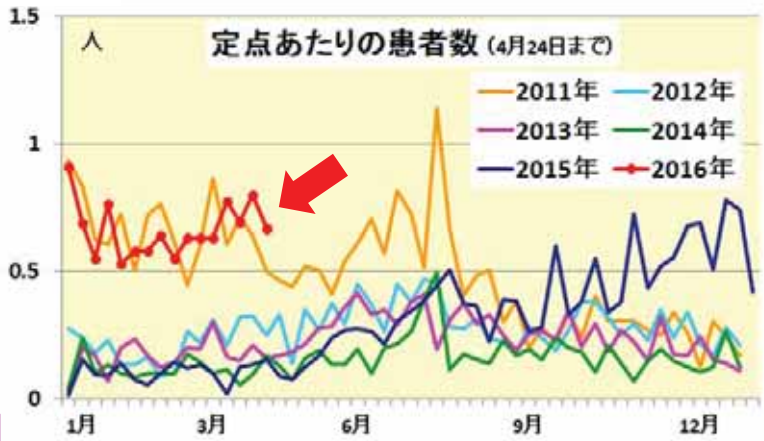
横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
インフルエンザ	散発	減少	昨シーズンより 5 週遅く、3 月下旬に警報が解除されています。4 月に入っても患者発生の報告がありました。【'16.4 号】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	例年より多い状況が続いています。予防には手洗いが大事です。1 歳から予防接種が受けられます。【ワクチンちらし】
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	散発	横ばい	例年に比べ多いです。かぜに似た症状ですが、治療には抗生物質が必要で、腎炎等の合併症もみられます。【'15.3 号】
流行性角結膜炎	散発	やや増加	集団で大きな流行を起こすこともあり、はやり目とも呼ばれます。正しい手洗いを習慣づけ、タオルの共有は止めましょう。

今、気をつけたい感染症 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

●全国的にも、過去 5 年間と比較して、やや多くなっています。

●咳のしぶきや（飛沫感染）、唾液で汚れた物などから（接触感染）うつります。



●耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。

●髄膜炎等の合併症を起こす場合もあり、まれに重い難聴が一生残る例もみられます。

●子供に多いですが、大人でもかかります。

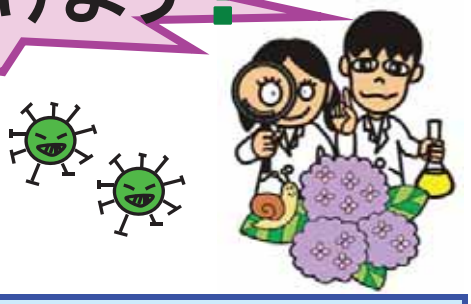
●ワクチン接種は効果的な予防方法です。

●保育園など集団生活に入る前に受けましょう。かかりつけ医にご相談ください。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【6月号】



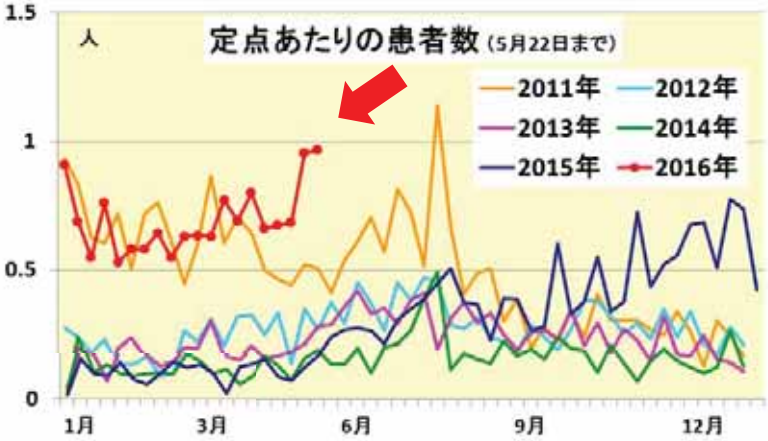
横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的にも例年より多い状況です。予防にはワクチンが有効です。日常生活での予防には、手洗いが大事です。【ちらし】
流行性角結膜炎	散発	減少	集団で大きな流行を起こすこともあり、はやり目とも呼ばれます。正しい手洗いを習慣づけ、タオルの共用は止めましょう。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	散発	横ばい	かぜに似た症状ですが、治療には抗生物質が必要で、腎炎等の合併症もみられます。早目に受診しましょう。【'15.3 号】

今、気をつけたい感染症 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

♪ ムンプスウイルスが原因で、咳のしぶきや（飛沫感染）、唾液で汚れた物などから（接触感染）うつります。

♪ 耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。

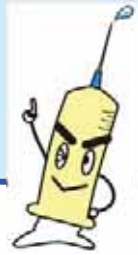


♪ 髄膜炎（脳と脊髄を包む膜に炎症を起こす病気）等の合併症を起こすことがあり、まれに重い難聴（ムンプス難聴）が一生残る例もみられます。

♪ 思春期以降では、睾丸（こうがん）炎や卵巣炎を起こす場合もあります。

♪ 最も有効な予防方法は、ワクチン接種です。

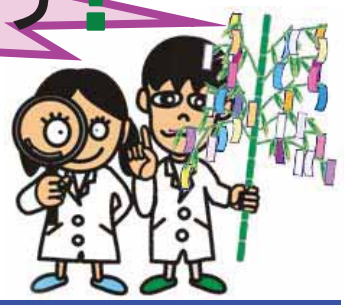
♪ かかりつけ医にご相談ください。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【7月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
咽頭結膜熱（プール熱）	やや流行	増加	子供に多く、夏を中心に流行します。ウイルスが鼻・のど・目に入って感染し、プール以外の場所でもうつります。【ちらし】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的にも例年より多い状況です。予防にはワクチンが有効です。日常生活での予防には、手洗いが大事です。【ちらし】
流行性角結膜炎（はやり目）	やや流行	横ばい	ウイルスが原因で、幅広い年代にみられます。手洗いを正しく行い、タオルなど目に接触する物は個人専用にしましょう。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	やや減少	かぜに似た症状ですが、腎炎等の合併症が起きる例もあり、抗生物質で治療します。早目に受診してください。【'15.3 号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

■ O157(オーイチゴナナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。
■ 飲食物からだけではなく、患者の便で汚れた物品からも感染します。 ■ 症状は腹痛・下痢・血便などです。 ■ 乳幼児や高齢者では重症になりやすく、命に係わる場合もあります。

■ 市内では 6 月から急増し、家族内の報告もありました。 ■ 例年、夏に増加します。 ■ 調理では、食材の加熱・洗浄を十分行いましょう。

■ 家庭での感染防止には、手洗いが重要です。
■ トイレも清潔に保ちましょう。

海外旅行先での感染症

■ 夏休みは、海外で感染症にかかるケースが増えます。
■ 渡航先での感染症にも気をつけてください。
■ 今年は特に、ジカウイルス感染症に注意が必要です。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

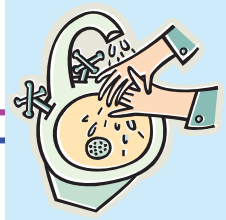
2016年【8月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号】
ヘルパンギーナ	警報	増加	いわゆる夏かぜの一つで、ウイルスが原因です。子供に多いですが、大人もかかります。ワクチンは、ありません。
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的にも例年よりかなり多いです。まれに重い難聴が残るケースもあります。予防にはワクチンが有効です。【'16.6 号】
流行性角結膜炎（はやり目）	やや流行	横ばい	ウイルスが原因で、幅広い年代にみられます。手洗いを正しく行い、タオルなど目に触れる物は個人専用にしましょう。
腸管出血性大腸菌感染症	やや流行	やや増加	0157 など病原性大腸菌に汚染された物を口にして、感染します。食材の加熱・洗浄、手洗いで予防しましょう。【'16.7 号】

今、気をつけたい感染症 ヘルパンギーナ

● 急な高熱とのどの奥の水ぶくれが特徴です。 ● 通常は 1 週間位で治りますが、まれに髄膜炎（脳と脊髄を包む膜に炎症を起こす病気）などの重い合併症を起こすこともあります。 ● 発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに受診しましょう。



● 感染経路は、体液や便による接触感染・経口感染、咳やくしゃみによる飛沫感染です。 ● 予防のためには、手洗い・うがいが大切です。 ● 治った後も、便には 2～4 週間程度と長い期間ウイルスが含まれるため、特に、おむつ交換の後は手をよく洗いましょう。

海外旅行先での感染症

● 渡航先での感染症にも気をつけましょう。 ● 今年は特に、ジカウイルス感染症に注意が必要です。 ● 帰国時に体調が悪ければ、すぐに受診してください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号】
ヘルパンギーナ	警報	減少	急な高熱とのどの奥の水ぶくれが特徴です。まれに髄膜炎等の重い合併症を起こします。大人でもかかります。【'16.8 号】
RS(アールエス)ウイルス感染症	やや流行	増加	冬場のかぜの一つですが、増加傾向が例年より早く表れています。日頃から手洗いを習慣付けておきましょう。【'15.10 号】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的にも例年より多い状況です。年齢が上がると重症になります。最も有効な予防方法はワクチン接種です。【'16.6 号】
流行性角結膜炎（はやり目）	やや流行	横ばい	幅広い年代にみられ、職場や家庭など集団での流行も起こします。手洗いを正しく行い、タオル等の共用は止めましょう。
腸管出血性大腸菌感染症	やや流行	増加	O157 など病原性大腸菌に汚染された物を口にして、感染します。食材の加熱・洗浄、手洗いで予防しましょう。【'16.7 号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

飲食物から以外に、感染した人から人へもうつります。

✓ 市内でも ✓ 家族の間で感染が広がった例が ✓ 報告されています。

家庭での感染予防には、手洗いが大事です。

✓ トイレの後 ✓ 調理前 ✓ 調理中に生ものをさわった時 ✓ 食事の前
✓ 下痢をしている子供の世話をした後などに ✓ しっかり手を洗いましょう。

トイレは、いつも清潔に保ち

✓ ドアノブ等 ✓ 手を触れる所は
✓ 特に丁寧に掃除しましょう。

下痢症状があれば

✓ タオルは他の人と
✓ 別にしましょう。

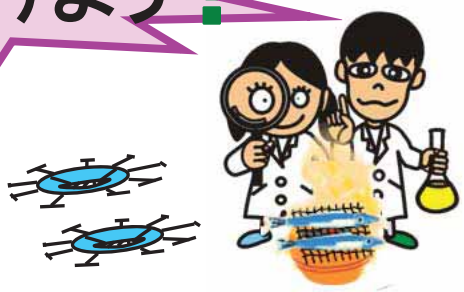
腹痛・下痢・血便など症状が出てしまったら

✓ 早目の受診が必要です。
✓ 自分の判断で下痢止め薬を飲むことは
✓ 止めてください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

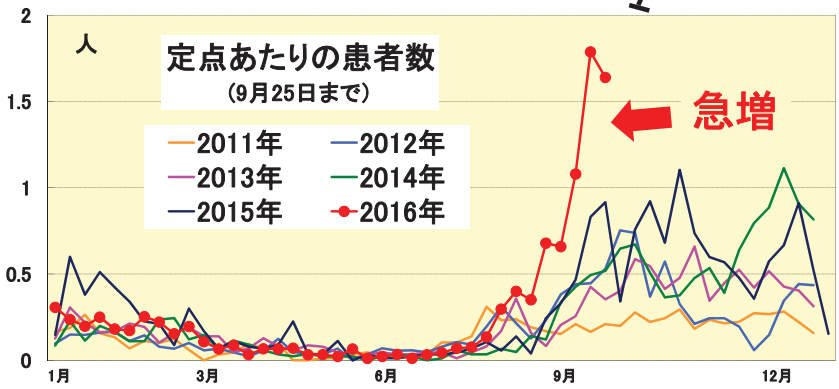
2016年【10月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
RS(アールエス)ウイルス感染症	流行	急増	冬場のかぜの一つですが、今年はすでに流行が始まっています。重症例もみられ、十分な注意が必要です。【'15.10 号】
腸管出血性大腸菌感染症	やや流行	横ばい	飲食物から以外に、感染した人から人へもうつります。食材の加熱・洗浄、手洗いで予防しましょう。【'16.9 号】【O157 チラシ】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的に例年より多い状況が継続中で、市内でも注意報レベルの区があります。予防にはワクチンが有効です。【'16.6 号】
流行性角結膜炎（はやり目）	やや流行	横ばい	幅広い年代にみられ、職場や家庭など集団での流行も起こします。手洗いを正しく行い、タオル等の共用は止めましょう。
ヘルパンギーナ	警報解除	減少	体液・便・咳などから感染し、まれに重い合併症を起こします。大人でもかかります。ワクチンは、ありません。【'16.8 号】

今、気をつけたい感染症 RSウイルス感染症



■ 例年より急に大きく増加しています。■ 乳幼児や高齢者、免疫の弱っている人では、重症化し入院するケースもあります。

■ ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着して感染します。
■ 他の感染症を防ぐためにも、正しい手洗いの習慣をつけましょう。

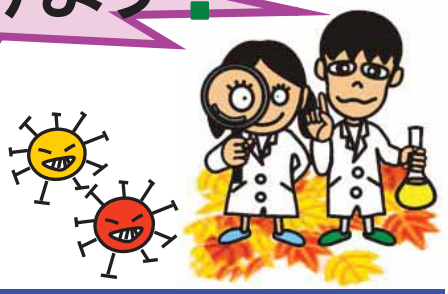
麻しん（はしか）に注意！

■ 市内では今年に入り患者報告はありませんが、全国的には海外からウイルスが持ち込まれ、感染が広がった地域もみられます。■ 合併症を起こすと命に係わることもある感染症です。■ ワクチンを 2 回接種して予防しましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2016年【11月号】

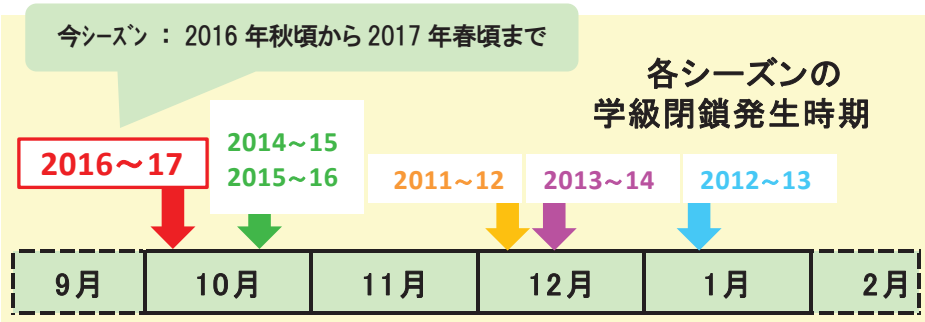


横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
インフルエンザ	やや流行	増加	報告が増える時期が例年より早いです。予防や早期受診など、今から十分注意しましょう。【'16.2 号】【ちらし】
RS(アールエス)ウイルス感染症	流行	横ばい	例年に比べ大幅に多い状態が続いています。特に乳幼児では重症例もみられ注意が必要です。【'16.10 号】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的に例年より多い状況が継続中で、市内でも注意報レベルの区があります。【'16.6 号】【ワクチンちらし】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

- すでに学校や高齢者施設で、集団発生も起きています。
- 10 月上旬には、今シーズン初めての学級閉鎖が報告されました。



- 特に、高齢者・小児・妊婦や、ぜん息などの持病があると重症になりやすいです。
- 予防の基本は、正しい手洗いを習慣にすることです。ワクチンも大切です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、咳エチケットを守り早目に受診してください。

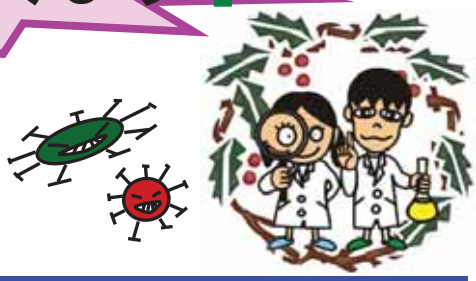
- 熱が下がってからも、数日間は人にうつす可能性があります。

- 学校等については、「症状が出てから 5 日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後 2 日間（幼児は 3 日間）は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

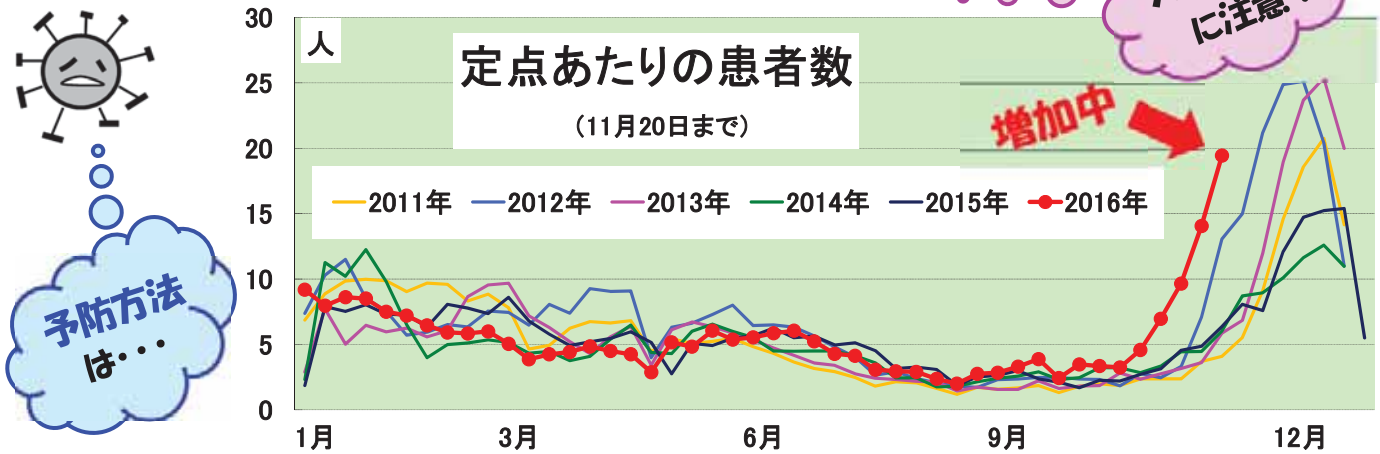
2016年【12月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明　【解説付き既刊号等】
感染性胃腸炎	流行	増加	すでに8区で警報レベルです。保育園や高齢者施設等での集団感染も報告されています。【'16.1 号】【ちらし】
インフルエンザ	やや流行	増加	例年より早く、流行期に入りました。学級閉鎖も主に小中学校で発生しています。【'16.11 号】【ちらし】【Q&A】
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	やや流行	横ばい	全国的に例年より多い状況が継続中で、市内でも注意報レベルの区があります。【'16.6 号】【ワクチンちらし】

今、気をつけたい感染症 感染性胃腸炎



- ✓ ごく少量のウイルスが口から体内に入っただけで感染・・・
- ✓ トイレの後、調理や食事の前など、衛生的な手洗いを習慣に！

- ✓ 患者の便や嘔吐物に含まれるウイルスから感染拡大・・・
- ✓ 処理する時は、ウイルスが飛び散らないよう慎重に！

- ✓ 食品の調理は中心部までよく加熱すれば安心・・・
- ✓ 85～90℃で 90 秒以上！

- ✓ 消毒薬には、次亜塩素酸ナトリウムを正しく希釈して・・・
- ✓ 家庭なら塩素系漂白剤で！

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 28 年(2016 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
平成 29 年 11 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可